

閣人民一般ノ為ニ設クル公舎奇巧ノ表碑學
堂書庫等并ニ土地ノ私有物ハ之ヲ戰權外ニ置
テ沒收スル事ナレ但レ戰場ニ於テ掠奪レ或ハ
府城ヲ圍テ獲ル所ノ物或ハ敵國ノ住民ヨリ軍
費ヲ募ル等ニ至テハ之ヲ免ルサズ右敵貨ヲ掠
畧破却スルヲ免ルスノ條件ハ全勝ヲ得テ更ニ
敵國ヲ征服セシムルト至ル必ス遵テ守ル可キ
ノ規則トス古時羅馬法ノ如キハ無慈悲凶ナリ
レヲ以テ^後羅馬西部ノ衰敗ニ及レテ北部蕃夷ノ
為ニ^{セラル}羅領征服ス是ニ於テ^ハ國土三分ノ二ヲ沒

司法省

収レテ之ヲ勝者ニ分與セリ又^ル挪^ル滿^ル王^ル韋^ル良^ル英^ル國
ヲ征服セシ時モ亦如ク^レトス之ヲ抑ニ歐洲如
此キ勝軍ノ結例トス以後改湯耶蘇教ヲ奉スル
ノ各國ニ在テハ^ニ繼^レ今^レニ約定ヲ以テ屬地トナル
ヲ定ムルト至ル土地ノ所有ヲ必ス變スル事ナ
レ其征服スル國ノ公有物ノニ勝者ニ歸レ全ク
前君ノ主權ヲ掌握ス其他私有物ノ權ニ就テハ
更ニ敵國勝軍ノ為ニ^ニ管^レ係^ルスル^ルナレ
第三百四十七條 以上論スル如ク戰爭ニ於テ
戰權ヲ限制スルト至ル亦此例外ニ出ル者アリ

是レ都テ天理ノ然ラレル所ニレテ敵ニ對シ
テ凶暴ヲ用ユルヲ許ルス然レモ全ク敵對ノ目
的ヲ遂ルニ已ムヲ得サル時ノミ用ユルノ戰權
ヲ容ルヌニアリ敵人ヲ滅スニ制限アルノ規則
ハ即チ又敵地ヲ鈔掠スルノ大小如何ヲ斷スル
ノ先規トス若レ戰意ヲ遂ンカ為メ已ムヲ得
サレハ此凶暴鈔掠ヲ行フヲ許ルス可レ否ラサ
レハ兵リニ行フ能ハサル也故ニ若レ敵兵ノ進
行ヲ拒絶スル能ハサル時或ハ我カ疆内ヲ保守
スル能ハサル時或ハ府城ヲ攻撃セントスルモ

司法省

其近地ヲ破ラサレハ進軍ノ路ナキ時等如此キ
非常ノ場合ニ於テハ戰法ノ常格ヲ欠テ例外方
策ヲ用ユルモ必ス妨ケアル可カラズ近世ノ通
習ニ於テ戰事若レ他ノ例外ノ事ヲ用ユルヲ許
ルス時ハ我亦強價ノ權利或ハ其他報復ノ權利
ヲ用ユ可キナリ夫レ萬國公法ハ各國互ニ相遵
用スルノ規則タルヲ以テ此國之ヲ守レハ彼國
又之ヲ犯ス可カラサルノ信アリ故ニ若レ敵國
戰法ヲ犯シ我ニ於テ之ヲ拒防スルノ術ナキ時
ハ即チ彼ヲ正レリ報復ヲ謀リ以テ敵國ヲ正テ

再々犯法ノ事勿ラシム可キナリ

司法省

第三百四十八條 近時英米交戦ノ如キハ従前
文明国ノ通習ニアル可カラサル戦例ニレテ英
軍米軍ニ對シ敵人敵貨ヲ供^與ニ殘毀セシ所爲ノ
更ニ著ルレキ者トス抑^レ此事件ハ兼テ米軍不
法ノ戦權ヲ施シテ英領加拿太^{カナダ}ノ疆界ヲ侵シタ
ルヲ名トシ以テ英軍此復仇ヲ謀リタル事件ニ
レテ即チ一千八百十四年八月十八日バチエキセ
ニト河ノ將艦ニ於テ英國水師提督コクレーシ
氏躬ヲ書ヲ認メ之ヲ米軍書記官モンル^{モン}ル^ル氏ニ
贈テ曰ク我カ英國人曾テ西加拿太ニ於テ米軍

司法省

ノ爲メ不法ノ戦權ヲ以テ殘害セラレタリ因テ
我カ軍又不法ノ戦權ヲ施シテ米民ニ對シ之ヲ
報ヒント欲シ即チ加拿太ノ總督ヨリ我ニ令ス
ルニ須ラクカノテ報復ノ戦畧ヲ尽ス可キノ命
ヲ兼タリ依テ我カ揮下ノ海軍ヲ率ヒテ米國海
岸ノ城邑各地悉ク攻撃スルヲ得可キ処ハ燒毀
蹂躪一モ餘ス所勿^無ラシメント欲スルハ元ヨリ
我カ提督ノ職掌タルヲ以テ具戦畧ヲ施シタル
ナリ

第三百四十九條 一千八百十四年九月六日華

盛頓府ニ於テ米國政府ヨリ此書ニ答テ曰ク
今回復仇ノ趣意ヲ以テ英軍我カ米國ニ對シ
殘虐妨害スルノ所爲全ク文明ノ戦法ニ違反
ス実ニ愕然更ニ何等ノ原由ニ出ルヲ知ル可
カラサル也抑米國ノ英國ニ兵ヲ構スル所爲
ノ者ハ實ニ已ムヲ得サルニ出ル所ニシテ一
モ殘暴ヲ旨トスルニ非ス偏ニ仁義ヲ重シレ
和ニ復スルノ後兩國共ニ信懇ヲ益スニ厚ク
ヤン^トヲ欲レテ以テ戦フニ在ルナリ然レモ
今般英國政府ノ行フ所ヲ見ルニ一モ我ト同

司法省

レク仁義公平ノ所爲ヲ用ユルニ非ス是レ深
ク遺憾ニ堪ヘサル所トス曾テ亞國野蕃英軍
ニ加ハリライシ^ン河ニ於テ我カ國民ヲ殘虐
セレハ措テ之ヲ向ハス此次前書ノ事ニ就テ
ハ一千八百十三年[「]チュセビ[」]キ[」]港ニ於テハ
フル、グレイ[」]ス[」]并ニ[」]ゲ[」]ヲル[」]ゲ[」]タウ[」]レ[」]ヲ侵[」]殺[」]チセ
レニ係ル所トス此村落ハ全ク英國海軍ノ爲
メニ襲ハレ燒毀暴乱兵仗ナキ者モ俱ニ兵害
ヲ蒙リ殘死元ヨリ云フ可カラサル所ニシテ
我カ人民一モ公法ノ守護ヲ受クル者無シ又

統テ同レク海軍ヲ以テチエセピキノ海岸ヲ
襲撃シ其景况義軍ノ為ニ所ニ非ズ頗ル残暴
ヲ極メ深ク我カ人民ヲ痛哭セシムル未又華
盛頓ノ政廳ヲ破却セリ夫レ近世歐洲各國ノ
戦法ニ於テ巨ヒニ公宇ヲ焼クノ例一モアル
可カラズ十年未改羅巴各國ノ首都屢ニ勝者
ノ有ニ屬スル者アリト云々如キヲ焼毀残暴
ノ例未ク之ヲ聞カサルナリ是レ古時野蕃ノ
時世ヲ顧ルニ非レハ其例ヲ見ル可カラサル
者トス如キ所為ハ我政府ニ復仇ヲ強迫セ

司法省

ント欲スルヤ然レ氏我カ政府決シテ如キ
所為ヲ准ルサバ也即チ前條ニ挙ル英國不
法ノ所為ヲ我ニ行フノ後我カ軍西加拿太ノ
引ワリク村ヲ焼セシハ全ク復仇ノ意ニ出
ルニ非ズ此村落ハ予ヲルゾ堡ニ接近セルヲ
以テ我カ戦畧ヲ施スニ当リ此村落ヲ毀タサ
レハ其堡ヲ攻ムル能ハス時期實ニ已ムヲ得
サルニ出ル所トス然レ氏我政府猶此事ヲ是
トセス之ヲ指麾セシ將官ヲ罰シテ軍事裁判
ノ処分ニ任カシ又シントターヒツト村我カ散

兵ノ為メニ毀燒セラル。時モ此軍ヲ指揮セ
レ將校其舉動ヲ差止メサルノ罪ヲ以テ其職
務ヲ免除セリ米國政府ニ於テ英國ニ於テ行
フ所ノ所為ニ從ハントスルニハ米國仁義ヲ
專ラトレテ令ヲ海陸軍ニ出スヲ以テ固ヨリ
相均フスル能ハス米國政府ハ如キ不當慘
暴ノ戦争ヲ為ヌヲ欲セス故ニ若シ米軍中不
當不正ノ戦法ヲ用ユル者アル時ハカノテ之
ヲ改革レ再ヒ犯ス者アル可カラサルヲ至要
トス然レモ英國水師提督「コクレー」ニ氏ヨリ

司法省

ノ書中ニ昭明記載スル如ク全ク無根ノ事故
ニ託レテ報復ヲ企テ其殘暴ヲ極メタルニ至
テハ已ニ忍フ能ハス米國政府深ク抗敵ノ意
ヲ扶ミ拳民復仇ノ恨ミヲ含ムニ及ヒタリ抑
々如キ確證アルニ非レハ尚ホ深ク意恨ヲ
挟ムニ至ル可カラズ然レモ既ニ此確證アル
ニ於テハ是非ヲ論セス公法ニ許ルス可カラ
サル戦法ヲ以テ海陸軍送ヒニ相報復レテ其
恨ミヲ報ユルノ外アル可カラズ米國政
府ニ於テハ常ニ英國ノ行フ所ニ從テ以テ我

カ戦権ヲ施ス可シ英國行フ所ノ事ハ凡テ文
明ノ通習ニ及シ人情ニ背疾レ全ク合衆国ノ
意見ト反對ス是レ誠トニ遺憾ニ堪ヘサル所
ナリ然レ氏我將タ何ヲ慮ルニ違アラニヤ決
意レテ自主ノ国権ヲ守リ自護ノ戦権ヲ尽ク
レ復ラク抗敵ノ意ヲ逞フスルノ外アル可カ
ラサル也

第三百五十一條 一千八百十四年九月十九日
英、水師提督此書ニ答テ曰ク前書中ニ送致スル
事件ニ付テハ一ニ我之ニ答辨レテ論スルノ

司法省

権威ナレ然レ氏我カ遺憾トスル所ノ者ハ加
拿太総督ヨリ重テ別ニ准ルス所ノ命令ヲ
差止ム可キ権威アル可カラズ元ヨリ提督英
政府ヨリ指圖ヲ受ル迄テハ兼テ米軍ニ因テ
侵襲ノ不法ヲ蒙リタル加拿太人ニ對シ賠償
ヲ爲スニ非レハ我カ已ラニ施行スル所爲ヲ
固守セサルヲ得サル可シ

米国政府ニ於テ米軍ノ「子ウワルク」ヲ侵襲セ
シヲ許サ、ル事ハ之ヲ委シク加拿太ノ総督
ニ通告セリ即チ総督一千八百十四年二月十

日ノ書翰ヲ以テ之ニ答テ曰ク米國政府ニ於
テ此所爲ヲ許サズ米國人情ニ背戾スルノ趣
ヲ知ル矣ニ我之ヲ満足ス若シ報復ノ地ヲ俾
テ同村ヲ燒毀スル如キ不法ノ所爲ヲ尚ホ続
テ犯ス時ハ必ス爲ノニ其殘害ヲ蒙ル者ノ憤
怒ヲ醸シ更ニ制ス可カラサルニ至ル可シ又
敵對ノ趣意私有物ヲ暴略破壊スルカ如キハ
米國ノ人情ニ適セス猶ホ英國ノ人情ニ於テ
モ同一ノ趣意タル事ヲ答ヘタリ

司法省

本已和ヲ讀ス然ルニ
ノ外ニシテ知ラズレテ
府ニ侵入ス

茅三百五十一條 又一千八百十四年八月前
條ノ模様ヲ以テ華盛屯府ニ於テ議事堂大統
領ノ家室及ヒ自餘數多ノ官舎ヲ燒毀セシ所
為ハ全ク文明ノ戦法ニ道ハカルノ外他ニ之
ヲ考フル能ハス故ニ次年一千八百十五年四
月十一日英國下議院ニ於テ此事ヲ議論ス米
國ト和議約定ニ付候族^侯レセント氏ニ對シ麥^マ
金^キ督^ト士^ス氏^ゲント^レニ於テ和睦商議ヲ開クヲ延
滞スル公使ヲ責罰シテ曰ク米國ニ對シテ戰
争ヲ多クスノ猶^際ホ和議ヲ延滞セシ処置ノ不可

司法省

ナルトヲ難シタリ夫レ英米ノ海軍ヲ權衡比
例スル時ハ米國ノ海軍尚ホ未タ長セズ如ク
クシテ英軍米軍ヲ敗リ和議ヲ遲延レ戦ヲ統
ケ^キ尚ホ米國ニ勝軍ヲ出ニ至テハ英國ノ為メ
甚タ期會ヲ失レタリト云フ可キナリ若シ公
會ヲ六月ニ開キタリシナラハ蓋シ華盛屯攻
襲ノ軍全ク出ヌニ至^至ル可カラズ英軍全ク如
クキ殘暴ノ勝軍ヲ得ルニ非ル可シ矣ニ如ク
クシテ勝ツハ敗ヲ取ルニ如カス却テ汚名ヲ
後世ニ遺ヌ可キ者ト云フ可キ也是レ歐羅巴

全滿ニ對シテ英國海軍ヲ恨惡恐懼セシムルニ過キス矧シヤ米國全民ノ心ニ於テヲヤ舉國恨ミシ英國ニ合ミ悉ク其敵トナルヲ喜ヒ^原史曆ニ載スル如ク全ク人民ノ敵意ヲ挑起レ我政府ヲ衰廢セシムルノ原由ニレテ當時ノ戰畧ニ於テハ一モ許ルズ所アル可カラス後世ノ政ニ於テ更ニ益スル所與ク實ニ今次ノ襲撃ハ其國力ヲ較ベテ戰フニ非ス更ニ人民一般ノ面目心情ニ對シテ戰フ者ト云フ可キ也曾テ歐滿徵戰ノ時歐滿各國ノ首都ハ敵軍

司法省

皆惜ンテ之ヲ毀リス然ルニ尔後二十五年ヲ往テ英國此國禮ヲ破リタリ凡ソ文明國迭ヒニ相敵視スルト由テ政廳ノ在ル地立法裁廳ノ集マル處證書史鑑ノ藏スル所等ハ皆文明國ニ於テ戰事ニ關係スル者ニ非ストレテ平時國家ヲ治メ人民ヲ裨益スルノ用具トス故ニ之ヲ戰權外ニ置テ敢テ毀リサル所以ナリ然レ氏英國竟ニ之ヲ毀亡ス是レ不法ノ戰畧ニレテ僅カニ米軍西加拿太ノ村落ヲ侵シタルヲ恨ミ又米國政府ニ於テ公許セザル下

士官ノ所為ヲ憤テ之ニ報復ス到ハ英國宰相
華盛氏ヲ殘滅スルヲ聽ルスニ於テヤ更ニ
殘虐云フ可カラサル也凡ソ復仇ヲ許ルニ
ハ爰ニ彼レ不法ヲ犯シタルノ確證アルカ又
敵國ニ於テ不法妨害ノ償却ヲ肯ンセサルカ
ニ非レハ必ス之ヲ行フ可カラス蓋シ坎次ノ
事件ニ就テハ米軍不法ノ明證アルニ非ス又
償却ヲ肯ンセサルノ證拠アルニ非ス唯傷ヲ
復仇ト做スノ證拠ヲ存スル者ナリ夫レ首都
ノ價ハ其家屋倉庫高舗ニ因テ之ヲ算定ス可

司法省

キニ非ス都府ハ教ヲ可カラス量ル可カラサ
ル者ヨリ成ル処ニシテ又富民ノ壯大ナル碑
表アルヲ以テ論ス可キニ非ス全ク立法ノ出
ル処公裁ヲ掌ル處社時ノ記臆ニ管係シ又益
スニ未來ノ盛大ヲ希望スル管係スル所トス
如坎リ華盛氏ノ聖名ヲ以テ奉民ノ尊敬スル
処ヲ僅ニ勅縣ノ一政府ト一様ニ論シテ以テ
灰燼トナスニ於テハ抑ニ公法ノ許ルス可カ
ラザル所ニシテ独リ米人ヲ蔑視スルニ非ス
一般萬國ノ民情ニ適セサルノ所為ト云フ可

キ也

第三百五十二條 一千八百十五年歐洲各國
連盟シテ佛國ニ侵入シ國畫肖像及ヒ其他奇
巧ノ表碑ヲ強還セシメタリ此奇物ハ盡ク佛
國嘗テ各國ヲ征服シテ奪掠シ佛都博物館ニ
集貯シ置ク所ノ者ニシテ各國佛都ヲ破ラ和
ヲ講スル時此皆戰權外ノ物タルヲ以テ分テ
原主ニ交還セシメタリ

第三百五十五條 佛國奪取ノ奇品ヲ原主ニ還
附セシ論ニシテ錯雜詳解スル能ハス故ニ今
暫ラク措テ後譯ニ讓ル者共ニ條無キヲ怪

司法省

ハ勿 開化漸ク進歩スルニ從テ徐々ニ陸戰ノ
嚴法ヲ寛舒ニス然レ氏海戰ニ於テハ其例尚
ホ嚴ナリ海上或ハ港中ニ於テ捕拏スル私有品
ハ品貨ヲ問ハス悉ク之ヲ沒收ス是レ海陸戰法
ノ同レカラサル所ニシテ陸戰ハ城府ヲ攻圍
シテ私有品ヲ捕拏シ敵人所屬ノ貨物ヲ沒
收セス其畧收スル土地ニ軍費ヲ募リ或ハ陸
戰ノ目的トスル所敵地ヲ略レテ我カ既ニ失
テ所ノ地ニ交換セントスル時ハ勝者路ル所ノ
地ヲ以テ已レカ地ト爲シ服スル所ノ民ヲ以テ

海陸私有品
捕拏ノ區別

何レノ人敵ニ加ハ
ルヲ准ルサル可キ
ヤノ論

已レカ氏ト為ス是ヲ以テ自然戦法ヲ嚴行
セサルナリ海戦ハ然ラズ其目的トスル所ハ
吾敵ノ通商航海ヲ破リ敵國海軍ノ根元ヲ
絶ツニアリ故ニ此戦意ヲ遂ントスルニハ獨
リ海上ノ敵貨ヲ捕拏没收スルニ非レハ得可カ
ラサルナリ

第三百五十六條 既ニ戦争ノ公告アルニ及ン
テハ兩國ノ人民互ヒニ敵視スルヲ戦例トス然
レモ各國漸ク此規則ヲ變易シ敵人ニ害ヲ為
スヲ唯ルスハ唯一國ノ令ヲ或ハ明或ハ暗ニ受

司法省

ル者ノミノ外私ニ敵ヲ害スル能ハサルナリ
即チ敵ニ向テ公然戦ヲ得ル者トハ定備海
陸軍及ヒ防禦ノ為ノ徵募セララル、者或ハ
命ヲ承ケスト臣民戦時迫テ自護ノ為メ
已レヲ得ス敵ヲ害スル者等ヲ云フ羅馬ノ
戦法ニ曰ク何人モ軍簿ニ著名シ軍誓ヲ立ツ
ル者ニ非レハ公敵ト戦ヲ得ルサス是レ天理
政道ニ適スルノ規則トス若シ夫レ戦争國ノ
人民互ニ相劫掠殺傷スルヲ准ルレ其行フ
所一モ制^限減無キ時ハ戦争ノ殘克實ニ知ル可

免許ナク敵貨ヲ捕スル者

キ也蓋シ陸戦ニ於テ散兵黨ヲ結ンテ奪リニ擄掠スル者ハ法外ノ強盜トシテ處置シ文明國ニ行ハル、寛法ニ因テ守護セララル、ヲ得可カラサル也

第三百五十七條 凡ソ免状ナク私ニ艦装スル戦艦ヲ以テ擄リ自護ノ為メノミニアラヌ尚ホ敵ヲ攻撃シテ捕撃ヲ行フヲ容ルレ其貨物ヲ捕者ノ有ニ歸セシメヌ彼我共ニ之ヲ海盜ノ所為ト爲サスレテ敵ヲ向ハサルノ戦例ハ抑々古時海戦ト海盜ヲ同視セシ野蕃ノ遺風ニ

司法省

出ル所トス如此クレテ奪フ所ノ敵貨ハ政府戦利トシテ之ヲ没收レ即ケ所謂海軍權ニ屬スルノ捕撃トス又此規則ハ敵國ニ對シテ免状ヲ有スル戦艦ノ捕撃ニモ適用セララル、規則ニシテ此戦艦ニ因テ奪フ所ノ敵貨ハ同シク捕者ノ有ニ歸セス蓋ク政府ノ没收物トナルナリ

第三百五十八條 従前免状ヲ得テ私ニ艦装スル戦艦ヲ以テ海上ヲ縱横シ以テ敵ノ通商ヲ攻伐スルノ戦略ハ之ヲ海上律ノ許ル所ト

セリ然レモ是レ不法ノ盜掠ヲ排捺セシムル
 ノ泉由ニシテ且ツ陸地寛仁ノ戦法ニ合ハサ
 ルヲ以テ辱ニ之ヲ駁スル者アルニ因リ又
 全ク當時ノ人情ニ道セサルニ由リ仁人明師
 此習價ヲ革メシテ勸メタリ即チ一千八百
 八十五年米國ト普國トノ和戦ニ付佛藍林氏
 議定シテ即チ向來兩國戦争アルニ於テハ互
 ヒ私装ノ戦艦ニ免状ヲ與ヘテ以テ敵ノ通商
 ヲ妨乱セシムルヲ禁レタリ此誠ニ賛賞
 ス可キ事ニシテ他國ニ於テモ此例ニ倣フニ

司法省

足ル可キノ美例トセリ然レモ此議一千
 八百九十九年ノ約定改革ニ依テ遂ニ廢去
 ス是レ莫トモ惜ム可キノ一事トス蓋シ海
 上ニ於テ敵ノ私有品ヲ捕拏スルヲ准ルスニ
 於テハ敵ノ通商ヲ損害セシムルノ法益スニ
 大ニシテ殊トモ我カ海軍敵ノ海軍ニ及ハサ
 ル時ハ其強勢ヲ挫キ我カ弱ヲ補ハシカ爲
 メ亦、此法ヲ隆ンニ行フ可キナリ是レ實ニ
 恐ル可キノ戦例トス

第三百五十九條 戦争ニ於テ正然捕拏スル

捕拏ノ敵貨名
 稱ノ論

所百ノ權

ノ名稱一般ノ通理ニ因レハ其貨物原主ヲ離レ
テ捕者ノ有ニ移ルヤ已テニ其貨物原主ト絶レテ
捕者ノ有ニ屬ス然レモ各國ノ正法ニ於テ
動産不動産ニ此規則ヲ用ユルノ法ヲ變
革レ即チ凡テ動産ニ就テハ敵其貨ヲ領
取レ堅守レテ二十四時間ノ久シキヲ徑ルカ
或ハ捕者安全ノ場合ニ之ヲ運搬スルカニ
因テ全ク原主其有權ヲ失フ者ト考定ス
第三百六十條 一旦海上ニ於テ捕奪セラレ
而ノ後テ再ニ奪回セラル、船舶船貨ニ就テ

司法省

ノ規則ハ稍々他ノ動産ニ用ユル規則ト異ナ
ル所アリ此規則ハ其場合ノ異ナルニ從テ之
ヲ區別スル三トス一ニ曰ク海盜ヨリ奪回ヲ
行フ時ノ事ニ曰ク敵人ニ非ル免状ヲ領ス
ル捕者ヨリ奪回スル時ノ事三ニ曰ク敵人ヨ
リ奪回スル時ノ事

甲乙丙ノ三例アリ
甲ト乙ト戦ヒ乙ト丙
ト戦フト甲ヨリ勝ス
一戰ノ免状ヲ持スル者
丙ノ免状アリ捕奪スル
ルノ義

① ② ③

第三百六十一條 其一海盜ヨリ奪回ヲ行フ場
 合ニ於テハ其奪回スル貨物ヲ原主ニ還附スル
 一モ疑フ所アル可カラズ是レ海盜ハ原主貨ヲ
 捕スルノ正権ヲ有スル者ニ非ス故ニ原主未ダ
 所有ノ権ヲ失ハサルヲ以テナリ原主當一時所
 有ノ權利ヲ失フ者ニシテ奪回スレハ即チ追還
 ヲ需ムルノ権アリ如キリ追還ヲ得セシムルニ
 於テハ之ヲ奪回スル者モ亦救貨ノ賞ヲ討ムル
 ノ権ヲ有スルナリ故ニ一千六百八十一年佛國
 海軍律ノ條款ニ曰ク佛民或ハ佛國同盟ノ民海

司法省

盜ヨリ奪回スル船舶船貨ハ之ヲ海軍裁判所ニ
 上告レテ後一年一日内ニ貨主之ヲ請求シ船舶
 船貨ノ定價三分之一ヲ救賞トレテ救者ニ呈典シ
 テ還附セラル、事ヲ得可キナリ英國亦此法ヲ
 用ユ然レモ各國其國法ニ從テ此規則各ニ差違
 アリ故ニ和蘭及ヒ威内薩^{ウツナイ}ノ古例ハ海盜ヨリ奪
 回スルノ貨物ハ悉ク奪回者ニ与附ス是レ海盜
 ヲ勦滅スルニ大ニ公益アルヲ以テナリ又西班
 牙國ニ於テハ貨物賊手ニ入り二十四時間ヲ歷
 レハ原主之ヲ討還スル能ハサル也

第百六十二條 衆林氏前條ノ佛國海軍律ヲ
註釋シテ曰ク若シ海盜ヨリ奪回スル者外國人
ニテ其國法全貨ヲ奪回者ニ賞与スル規則ニ之
アル時ハ一モ貨物ヲ原主ニ追還スルト無シ同
氏尚ホ此說ヲ確實ナラシメシカ爲メ曾テ和蘭
人佛船ヲ海盜ヨリ奪回セシ時「ボルドウ」ノ議院
ニ於テ此論ニ議決セシ例ヲ掲ケタリ和蘭ノ法
全貨ヲ奪
回者ニボレル氏此說ヲ駁シテ曰ク夫レ和蘭
ノ國法ヲ以テ佛人ヲ統御シ其貨ヲ処載載スルノ
權アル可カラヌ蘭律ハ蘭律タリ佛律ハ佛律タ

司法省

リ凡ソ公法ニ於テ海盜ニ捕セラル、ノ貨物ハ
海盜國ヨリ捕權アリテ然ルヲ得ルニ非ス故ニ
原主尚ホ未タ其有權ヲ脱セサルナリ然レハ即
チ佛律ニ從テ捕者ニ定例ノ賞金ヲ与ヘ以テ貨
物ヲ原主ニ追還セシムルヲ當然トス可キナリ
此条中連盟同ノ字義ハ自ラ中立國ノ字義ヲ含蓄
ス衆林氏云ク友國人民ノ貨物ヲ海盜ヨリ佛人
奪回シ而シテ其友國ノ法律全貨ヲ奪回者ニ与
附スル時ハ救賞金ヲ拂ハシメテ之ヲ原主ニ追
還セシメヌ否ラサレハ彼我公平ヲ得可キ者ト

云フ可カラサル也

第三百六十三條 其ニ敵国ニ屬セサル免状ヲ
領スル捕者ヨリ貨物ヲ奪回スル時ハ亦原主ニ
追還セラル可キヤ茲ニ疑議アル可カラズ是レ
原主^捕捕等セラレタルハ誤テ行ハルニ係ルヲ
以テ原主未タ所有ノ權ヲ失フ者ニ非ルヲ以テ
ナリ

然レモ如此ク奪回スル中立国ノ船舶前捕者ノ
敵国ニ禁制品ヲ裝載シテ賣与セントスル者ニ
之アル時ハ元ヨリ前捕者之ヲ戦利トシテ没收

司法省

スルノ權利アルヲ以テ蓋シ原主ニ追還セラル
可キヤ異疑勿ル可カラズ「マルテ」云フ嘗テ
蘭船一千七百五十六年ノ戦法ニ從テ英船之ヲ
捕拏シ佛船之ヲ奪回セシ時^英美国最初之ヲ捕拏
スルト虽モ戦利トシテ没收スルヲ得可カラサ
ルニ因リ佛国戦利裁廳ニ於テ原主ニ追還セシ
ム可キ事ニ決定セリ然レモ若シ此事件元来公
法約定上ニ於テ禁制品ノ通商ニ管係スル時ハ
原主追還ヲ討ムルノ權利アル可カラサルナリ
第三百六十四條 渾テ中立国ノ船舶貨ヲ奪

和工、スタキ
船ノ先例

回スル時ハ之カ為ノ故賞金ヲ一モ拂ハル、事
ナレ蓋シ中立国ノ船舶船貨ハ敵国之ヲ捕撃ス
ルト家民其貨物不正ノ捕撃ニ屬スルヲ以テ敵
国戦利裁廳之ヲ強還セシム故ニ我ニ於テ之ヲ
奪回シテ其災ヲ免レシムルハ中立人ニ對シテ
更ニ有益ノ所為ト為ス可カラス即チ奪回者故
賞ヲ討ムルヲ得カル所以也

第三百六十五條 曾テ一千八百羊佛国戦利裁
廳ニ於テ右ノ規則ニ從テ決シタリ此事件ハ最
初英國ニテ捕撃セシ不國ノ船舶「スタキ」ヲ

司法省

佛国ノ捕船ニテ奪回シ其船貨ハ或ハ禁制品或
ハ敵貨タルヲ以テ沒收セントス其船舶ハ原
主ニ追還セリ此裁決ハ「ポルタリス」氏ノ決論ニ
出ル所ニシテ同氏論シテ曰ク佛国捕船ニテ奪
回スル所ノ船舶中立国ノ所屬ナル時ハ其公船
私船ヲ論セス一モ之ヲ奪回者ニ讓与スルノ理
アル可カラズ佛国ノ戦利法ハ獨リ敵手ヨリ奪
回スル佛船佛貨ニノミ用ヒラル、ノ規則トス
公法ニ從テ論スル時ハ中立国ノ船舶ハ各国尊
視セザル可カラズ若シ夫レ中立国ノ船舶一ノ

戦争国ノ捕艦ニテ不正ニ捕撃セラル、時何ヲ
以テ他ノ戦争国此ノ如キ不正ノ所爲ス做^致ニ不
正ノ利益ヲ計ル可キヤ一モ其理アル可カラス
故ニ此天理ヲ按スルニ佛国ノ捕艦ニテ奪回ス
ル所ノ船舶慥カニ中立国ノ船舶ト認ル時、其
中立国タルノ明証ヲ得テ即チ之ヲ追還セサル
可カラス然レモ爰ニ何ヲ以テ佛艦ヨリ却テ中
立国ノ船舶ヲ愛視スルヤノ疑問アル可シ即チ
此理ヲ明辨セン夫レ此規則ヲ設立スルニ元来
佛艦一旦敵手ニ落ル時、之ヲ奪回セサル内ニ

司法省

既ニセフ所ノ者トス故ニ之ヲ奪回スルニ又敵
ヨリ奪フ所ノ戦利トナスナリ然レモ中立国ノ
船舶ニ敵之ヲ奪テ敵貨ト爲サス又裁官之ヲ敵
貨トシテ没収ス可カラス故ニ没収ノ裁判ヲ受
ル迄テ中立国ノ旗章ヲ以テ航スル船舶ニ従前
ノ性格權利ヲ失フ者ニアラス縱令ヒ一旦戦利
トシテ捕撃セラル、モ終ニ原主ニ追還セラル
可キハ自然ノ本理トス是レ即チ中立国ノ船舶
ヲ奪回シテ奪回者ノ所有ヲ得セレノサル所以
ナリ中立国ノ事件ハ之ヲ全ク存シ置キ所有ノ

前條規則外
ノ論

要廷アラサル前必ス之ヲ決定ス可キ也如キ
ハ各公師ノ言ニシテ又各文明国ノ通習トス又
中立国ノ船舶ハ敵之ヲ捕奪シタルノ一事ノミ
ニ因ニ容易ク没収ス可キ者ニ非ス如此キ没収
裁判ヲ言渡スニハ必ス佛国戦利裁廳ニ於テ預
メ敵国戦利裁廳ノ所為ヲ考按シ然ル後々其事
件ヲ決定シ討主ヲ恩愛シテ決セシトスルハ即
チ追還ニ決スル素ヨリ論ヲ俟タカル也

第三百六十六条 然レモ前条ニ準ル戦利法ノ
通則ニ對スル至重ナル例外ノ事アリ即チ奪回

司法省

セラル、所ノ船舶船貨已テニ敵国ニ於テ没収
セラル可キ時ノ場合ニシテ此場合ニ於テハ原
トヨリ公法ニ從テ正然没収セラル可キヤヲ論
スルニ非ス奪回者ヨリ原主ニ對シテ作ス所ノ
功勞ニ就テハ更ニ中立国ノ貨物トモモ愛ニ區
別ヲ論スルト無レ抑々通則ニ於テ故賞金ヲ出
スヲ肯シセサルノ原由ハ文明ノ戦争ニ於テ戰
争国迭ヒニ中立国ニ對シテ務ム可キ義務ヲ彼
我俱ニ遵守ス可キ推定ニ出ル所トス然レモ若
シ実事ニ涉リテ捕者ノ戦利廳此義務ヲ欠キ更

ニ不正ノ所爲ヲ以テ中立国ノ貨物ヲ没収スル
時ハ之ヲ奪回シテ此災ヲ救フニ至テハ原主ニ
對シテ奪回者ノ功劳亦大ナリト云フ可キ也然
レハ則チ原主救賞金ヲ以テ此功恩ニ報ヒサル
可カラズ曾テ、アミーン、ノ和議ニ因テ終リタル
海戦中英米兩國ノ海軍裁廳ニ於テ佛國ノ捕船
ヨリ奪回スル中立国ノ貨物ニ付救賞金ヲ拂フ可
キ裁決ヲ爲シタルモ蓋シ此理ニ出ル所トス曾
テ佛國轉覆ノ大乱中戦利ノ前則大ニ奈レ中立
国ノ貨物ト云々之ヲ没収セリ是レ公法ニ於テ

司法省

更ニ不正ノ所爲トス此風遂ニ亦英國ノ戦利裁
廳ニ波及セリ如此ク不正ノ所爲ヲ以テ已テニ
没収ノ災ニ陥ル可キ中立国ノ貨物ヲ奪回スル
ハ英米戦利裁廳ニ於テハ之ヲ大ニ功実アルノ
所爲ト考定ス故ニ原主救賞金ヲ以テ報ヒスンハ
アル可カラサル也然レハ佛國政府ニ於テ之ヲ
改革シ目ツ賢明有徳ノ裁官「ホルタリス」氏ノ裁
決ヲ以テスル間ハ一千八百六十年柏林ノ議決公
布迄テ戦利法ノ処置ニ付キ一ヒ中立国ヨリ歎
訴ヲ受ケレシ事ナレシ此柏林ノ決議ハ英國海軍裁

廳ノ習慣ヲシテ再ニ收賞ノ規則ニ例外ノ事ヲ
行ハシムル事ニシテ即チ英國海軍裁廳ニ於テ
此議決ニテ没収セラル可キ中立國ノ貨物ヲ奪
回スル時ハ收賞金ヲ拂ハシムルヲ許シタリ
然レモ此議決ハ一千八百七十年十月「ヂエ」
シ号ノ船貨ヲ戦利裁廳ニ於テ没収スル迄チ未
國ノ貨物ニ對シテ現ニ行ハレサリシ事判然タ
リ故ニ恐ラクハ英國海軍裁廳ニ於テモ「ヂエ」
シ号ノ事件ニ於テ收賞金ヲ出サシムルノ決定
アラカリシナル可レ是レ當時尚ホ伯林ノ議決

司法省

ニ全リ相反シタル米佛ニテ盟約セシ一千八百
年ノ約條行ハレシヲ以テナリ然レモ「ホライゾ
シ」号ノ船貨ハ「サンソ」船捕撃ノ前奪ハル、所
ニシテ一千八百七十九年九月十八日帝王ノ詔書ニ
從テ之ヲ没収セリ故ニ「サンソ」船モ同シク没
収セラレ奪回ノ爲ノ通則ノ例外ニ因テ中立國
ノ貨主ニ收賞金ヲ出サシノタル事一モ疑フ可
カラサルナリ此規則統テ近時歐洲ノ戦争中各
戦争國ニ於テ相順用セリ是レ公法ノ古例ニ反
スル所ニシテ屢々中立國ノ船貨ヲ捕者ヨリ收

援奪回スル時ハ之カ爲ノ其奪回者ヲレテ救賞
ヲ討ムルノ權ヲ有セシメ更ニ如此キ奪回ヲ有
益ノ功勞トナスニ至リタリ

第三百六十七條 其三敵人ヨリ奪回スル貨物
ニ於テハ即チ羅馬法律ニテ所謂歸國權リステスヲ有ス
ル者ニシテ一旦敵手ニ入ル人民貨物其以前屬
スル所ノ国内ニ戻ル時ハ其原主ニ復及ス凡ソ
遊舟漢船ヲ除ク外人民奴僕及ヒ兵艦私船動産
不動産等皆此例ニ從フ者トス故ニ此等ノ貨物
奪回セラル、時ハ全ク原主ニ復レ更ニ所有ノ

司法省

權ヲ失ハサル時ト異ナル事ナレグロリュス氏云
ク歐洲古ハノ海上律ニ於テハ捕奪セラレ、ノ
貨物既ニ敵ノ城壘陣營等ニ入ル時ハ原主追還
ヲ討ムルノ權ナレ又近時歐洲各國ノ法律ニ於
テ捕奪セラレテ後二十四時間ノ久レキヲ歴ル
ノ貨物ハ縱令ニ敵ノ城壘陣營等ニ入ラスト亦
其原主所有ノ權ヲ全ク断絶ス陸濟ロウゼ尼氏云クニ
十四時間ノ久レキヲ歴テ原主ノ有權ヲ絶スル
規則ハ同氏書ヲ著ハス時歐洲一般ノ規則トス
又賓克舍ベニクセ氏曰ク一般ノ海上律ニ於テ若シ船舶

ル氏口友⁽¹⁾及⁽²⁾
ト⁽³⁾現⁽⁴⁾今⁽⁵⁾ハ⁽⁶⁾公⁽⁷⁾全⁽⁸⁾ク⁽⁹⁾其⁽¹⁰⁾
權⁽¹¹⁾ヲ⁽¹²⁾失⁽¹³⁾フ⁽¹⁴⁾モ⁽¹⁵⁾ト⁽¹⁶⁾セ

船貨捕セラレテ後敵国或ハ其友国又ハ中立国
ヲ向ハズ既ニ城壘陣營等ニ入ル時ハ原主所有
ノ權全ク新絶セリ

司法省

同盟国ノ貨物
ヲ奪回スル時其
国ノ規則ニ從テ
我之ニ否答スル
ノ論

茅三百六十八条 一千七百九十六年同レリ九
十七年英国ノ捕艦敵国ヨリ葡萄酒ノ船舶「サン
タクリ」ズヲ及ヒ其他教邦ヲ奪回セン事件ニ就
テ英国海軍裁廳ノ裁決ヲ言渡ス時斯果德氏之
ヲ論シテ云ク兼テ此事件ニ付テハ何ヲ以テ真
正ノ規則ト為ス可キヤノ疑向アリ是レ甚タ奇
異ノ疑議ト云フ可キ也我レ若シ真正ノ規則ト
云フ時ハ之ヲ一途ニ歸ス可カラス即チ文明国
各ニ正理ニ注意シテ送ヒニ必ス相遵守ス可キ
者ヲ以テ真正ノ規則トスルノ外アル可カラズ

司法省

凡ソ各国ノ習法各々一ナラズ故其一則ヲ採レ
テ之ヲ一般法律ノ通例ト為シテ用ユルノ規則
一モアル可カラズ茲ニ教則アリ或ハ奪回スル
ヤ直チニ所有ノ權ヲ領スルノ規則アリ或ハ終
夜及ヒ二十四時間ヲ以テ有權ヲ定ムルノ規則
アリ或ハ城壘陣營ニ入ルヲ以テ決スルノ規則
アリ或ハ又直チニ没収ヲ要スルノ規則等アリ
此教則何レモ実地ノ便宜ニ後テ十分適用スル
ヲ得可キ者ニシテ總令ハ之ヲ思量スル時ハ蓋
シ彼ヨリ此レヲ是ト為スノ權差アル可レト也

此爰ニ実地真正ノ規則ト定ム可キ者次シテア
ル可カラサル也唯各国其堅固安全ノ所有ヲ要
スルニ付テハ実ニ各国俱ニ同心一致スル所ノ
本理トス然レ氏此所有スル証拠ノ規則ニ至テ
ハ甚タ一様ナラス又更ニ相反對シテ其同心一
致スル本理ノミニテハ一般ノ通則ヲ立ツル事
能ハス又繼令ニ歐洲各国ノ公論ヲ以テ公法ニ
就テ此規則ヲ制定スルニ一致スルモ果レテ必
ズ一國ノ民ヲレテ之ヲ守ルノ義務ヲ有セシム
ルヲ能ハス夫レ此義務ハ當送ヒニ其行フ所ニ

司法省

因テ起ルノ義務ヲレテ他國ニ行ハルノ規則
更ニ我カ施ス所ノ規則ト異ナル時ハ我亦法ヲ
爰レテ之ニ報ユルハ固ヨリ正理ト為スノミ
ナラス全ク如斯ク為サレハ能ハサル也例
ヘハ爰ニ他國ニ行ハル、法貨物ヲ捕擧シ
テ即チ並チニ原主ヲレテ其所有ノ權ヲ亡
ハシムル規則ナル時ハ蓋シ真正ノ規則トナ
スト虫氏捕貨ヲ城壘陣營ニ齎ラヌヲ以テ
奪回ノ各時已テニ原主ヲレテ有權ヲ脱セシム
ル如キ更ニ廣寬ノ規則ニ依テ其他國人ニ對

ガシタシクワリ
船三有斯果德氏
論

レテ報ユルハ英國ニ於テ公平ノ所爲ト云フ
可カラサル也如此キ規則ヲ固守スルハ英國
人ニ對シテ頗ル不
理不正ノ所爲タルヲ免レ
ス實際不
理不當ノ生スル規則ハ決シテ獨立
國交際ノ真則ニ有ル可カラス又如此キ疑議ヲ
一般生スルヨリ更ニ明確ナル規則アレハ想
像所有ノ權ヲ一國ノ民ニ冠ラシムルヲ敢テ
其國ノ義務ト考定スル能ハサルナリ故ニ今
一方ニ想像ヲ以テノミ定ムル所有ノ權アリ
又一方ニ實際上有權ノ正理アレハ即チ其

司法省

實際上正理ノ規則ヲ以テ獨立國交際公法ノ
真則ト爲サ、ルヲ得サル也

第三百九十六條 斯果德氏云ク右ノ規則ニ
付キ各國相異ナルニ因テ同盟國ノ貨物ヲ奪
回スル時何ヲ以テ之ニ用ユルノ適則ト爲ス可
キヤ余レ今之ヲ向ハル、時ニ即チ答フルニ
如此キハ第一ニ其奪回物所屬ノ國法ヲ取テ
之レニ報ユルヲ公然至理ノ處置トナスヲ以テ
ス可レ余レ之ヲ各國ノ習法ト爲サ、ルヲ知
ルト或氏然レモ考フルニ公然正理ノ規則ト

為ス可キ也。蓋シ其奪回セラレタル者ニ取
テハ其身ノ國法ニ由テ處セラル、コ以テ素
ヨリ異存アル可カラス奪回者ニ對スルモ亦
損害アルノ規則ト考フ可カラス即チ奪回セ
ラル、者ノ國法ハ奪回物ヲ沒收シ之ニ反
シテ奪回スル者ノ國法ハ直チニ之ヲ追還ス
如此リ反對ノ規則ニ管涉スル場合ニ於テハ
抑ニ彼ノ國法ニ順テ我カ國法ヲ變用スルハ
大ニ益アリト云フ可キナリ又若シ奪回セ
ラル、者ノ規則ニテ直チニ追還スル時ハ奪

司法省

回スル者ノ國ハ即チ國法ニ對シテ當然ノ應
報ヲ受クルト考フ可キナリ

彼若シ此信ヲ破リ當然ノ應報ヲ欠キタル
時ハ如何果シテ余レ此疑問ヲ受リ可シ此時ハ
即チ報復ヲ謀テ以テ之ヲ恢復セサルヲ得ス獨
立國ノ爭論ニ於テ如此キ報復ハ之ヲ復仇
ノ報復ト考フルニ非ス當追償ヲ需ムル公
平當然ノ所爲トス是レ結局ノ所爲ニシテ
更ニ信用スルニ足ル可キナリ、固ヨリ各國互
ヒノ交際上ニ於テハ之ヲ細カニ審定シテ

權衡平均ヲ得ル能ハス各時某ノ事件ニ因
テハ正理ヲ推定シテ以テ後來ノ與否ニ拘ラ
ス必ス行ハサルヲ得サルナリ

或ハ又茲ニ奪回セラレタル者ノ国法ニ於テ此
事件ニ就テ一モ規則ナキ時ハ何ニ因テ處置
ス可キヤ必ス此疑問アル可キ也余レ又之ヲ
答辨セシ借テ第一如此キ場合ニ於テハ何
ニ因テ之ヲ推定擬決ス可キヤ是レ最モ難
シトスル所ナリ然レモ爰ニ奪回ニ付テ直チ
ニ施用ス可キ戦利ノ定則アラサルモ必ス文

司法省

明ノ通商国ニ於テハ後來ノ習慣法アラサル
ヲ得ス歐洲各国戦時ニ當テハ戦利處置ノ
公布先諭ヲ出スヲ以テ後來一般ノ通習トス
故ニ此公布アル迄テハ即チ海軍裁廳ニ於テ
古来ノ習慣ニ從テ正シク戦利ノ處置ヲ爲シ
即チ之ヲ後チノ戦利法ト定ム可キナリ又
第二ニ若シ爰ニ更ニ一ノ規則モ非ル國ニ對シ
テ奪回スル国ノ處置何ヲ以テス可キヤ此時
ニ於テハ已ムヲ得ス自国ノ規則ヲ以テ
之ヲ處置セサルヲ得ス之ヲ後來其同盟

國ニ於テ遵守スルノ規則ト考定ス又爰ニ
一國アリ其國法ハ他國トノ交際ニテ其他國
人ヲ處スルニ其國法ニ從テ各々別ニ之ヲ處
置スルヲスルノ法律ナル時ハ更ニ其不規則ナ
ル事固ヨリ言テ待タサル也然レモ能ク之ヲ
熟思スル時ハ全ク其理一ニシテ處置唯同シ
カラサルノミ然レハ即チ「キユニ」アルコト
ノ規則ヲ取テ我ニ之ヲ用ユ可キヤ若シ此國
民ヲ同盟國ノ人民トナス時ハ其國法ニ從テ
之ヲ處置ス猶ホ他ノ各國ニ對シテ其國法

司法省

ニ從テ處置スルノ規則ニ於ルカ如正如斯ク
抗論スル全理ヲ考フル時ハ不理不規則ト見
ル所ハ唯其外表ノミニシテ尚ホ適當ノ處置ヲ
含蓄スル者ト云フ可キ也蓋シ是レ不適ニ
似テ不適ニアラス實ニ他國ノ法ヲ以テ他
國人ヲ處スル適當ノ規則ト云フ可キナリ
又余レ躬ラ所有ノ疑問ニ就キ明解スルコトヲ
至要トス然レモ之ヲ詳明セントスルニハ先ツ
此事件ニ付英國海上律ノ實則ヲ考フル
ヲ緊要トス夫レ英國海上律ニ於テハ英國人

前章ノ後節

全理ヲ

其國法

氏ノ奪回物ニ就テ追還救賞ノ寛法ヲ用ユ
ルヲ以テ他國人ニ對スル時英人ノ所有品
ニ就テノ嚴置更ニ英國ヨリ嚴法ナルヲ見
ル迄テハ同盟國人ニ對シテ英法ノ利益ヲ
得セシムルヲ判然タリ故ニ他國ヨリ我ニ報
ユルニ更ニ嚴法ヲ以テスル場合ニ於テハ即
チ我ヨリ其法ニ從テ他國人ヲ嚴置ス余レ之
ヲ奪回ノ事件ニ付キ英法ノ統碎ナル者ト
考フルナリ此規則ニ就テハ更ニ「チヨサンシヤ」
船ノ事件ニ於テ明瞭タリ此事件ハ特別ノ模

司法省

様ヲ以テ決レタルニ非ス又新奇ノ規則ニ因
ルニ非ス全ク英國ノ裁權ヲ以テ決レタルナ
リ此事件ノ辨論ニ於テハ當時有名ナル法
師「レムカウ」氏ノ記載セシ規則ニ注意シ
テ決スル所トス英國ノ規則ハ同盟國ニ對シ
テ救賞金ヲ拂ハレノ以テ貨物ヲ追還スルヲ
定則トス然レモ彼レ若シ英國ノ貨物ヲ戰
利トシテ沒收スル時ハ英國海軍裁廳ニ於テ
之ニ報ユルニ其行フ所ノ規則ニ從テ其事件
ヲ決定ス

○米國敵國ヨリ
奪回スル同盟國
ノ貨物ニ付彼ノ行
フ所ニ從テ相應
答スルノ規則

第三百七十條 米國ノ法律ニ於テハ同盟國ニ
屬スル船舶船貨及ヒ兵艦ヲ以テ敵國ヨリ
奪回スル友國ノ船舶船貨ハ之ヲ追還スル
ニ彼ノ行フ所ニ從テ以テ施スノ規則トス嘗
テ一千八百三年三月三日公會ニ因テ決スル
處ハ凡ソ合衆國內ニ永住スル外國人ニテ合
衆國ト親睦ナル外國政府ノ守護ヲ受ル
者ノ船舶船貨ヲ合衆國ノ船舶ニテ奪回ス
ル時ハ之ヲ原主ニ追還スルノ規則トス但シ
此時ハ原主救賞金ヲ拂ハサルヲ得ス此救賞

司法省

金ノ高ハ其外國政府ノ法律習慣ニテ合衆
國ノ船舶船貨ヲ奪回スル時同様ニ討求ス
ル定價ニ從テ定ムルナリ又若シ其外國ノ
法律習慣ヲ知ル能ハサル時ハ合衆國內ニ
居住シテ合衆國ノ守護ヲ受ル外國人ノ貨
物ヲ奪回スル場合ニ於テ定ムル所ノ救賞金
ヲ拂ハシムルナリ然レモ若シ其船舶船貨奪
回ノ前戦利トシテ沒收セラル可キ時ハ之ヲ原
主ニ追還スルヲアル可カラズ又外國政府
ノ法律習慣ニテ合衆國人民ノ貨物ヲ捕奪シ

テ之ヲ追還セサル時ハ又之ヲ原主ニ追還ス
ル事アル可カラス

第三百七十一條 爰ニ彼ノ行フ所ニ從テ我之
ニ報ユルノ規則トナス時ハ即チ奪回ノ事件
ニ付各國ノ法律ヲ論スル一更ニ緊要トス
是レ各國ノ戦利法及ヒ裁判ノ決定ニ由テ之
ヲ需メ或ハ各國迭ヒニ相守ル可キ約定ニ由
ルニ非レハ必ス需ムル能ハス

司法省

英国ノ奪回法

第三百七十二條 現今ノ英国故賞規則ハ「^レ第
 三十三條ノ定律ニ因テ議定スル所ニシテ即
 今英国ノ臣民ニ属スル船舶貨物一旦敵艦ノ為
 ノニ捕掌セラル、者ヲ復ニ奪回スル時之ヲ英
 國^ニ王ノ船舶ニテ行フ時ハ其定價ハ分一ヲ故
 賞金トレテ原主ニ拂ハシメテ之ヲ追還レ又國
 王ノ守護ヲ受ル私艦或ハ他ノ船舶・之ヲ奪
 回スル時ハ分一ノ故賞金ヲ拂ハシテ追還セ
 ラル可キノ規則トス又若シ國王ノ兵艦及ヒ私
 艦ト共ニ協力レテ以テ奪回スルノ場合ニ於テ

司法省

ハ裁廳ニ於テ相當至理ノ商^高ヲ定メテ以テ故賞
 ヲ辨ハシムルナリ然レモ若シ如斯クシテ奪回
 スル所ノ船舶ヲ敵艦トシテ機装スル者ニ属
 スル時ハ之ヲ原主ニ追還スルナク戦利トレ
 テ捕者ノ裨益トナサシムルナリ

英国奪回法

第三百七十三條 一千八百零三年三月三日公會ノ
 議定ニ曰ク凡ソ合衆国内ニ居住シ或ハ合衆國
 ノ守護ヲ受ル人民所属ノ船舶貨物ニ付キ之ヲ
 奪回スル前當然ノ裁權ヲ以テ已テニ戦利トレ
 テ没収セラル可キ者ニ非ル時ハ即チ英国ノ官

以下未詳

船之ヲ奪回シテ其定價ノ八分一ヲ救賞トシテ
原主ヨリ拂ハシメテ追還セラル可ク又奪回ス
ル所ノ船舶先キニ捕拏セラル、前或ハ後及ヒ
奪回ノ前戦艦トシテ戦装スル者ニ之アル時ハ
其定價ノ半高ヲ救賞トシテ原主ヨリ拂ハシメ
之ヲ追還ス又若シ奪回スル所ノ船舶原ト合衆
国政府ノ所属ニシテ軍艦ニ非ス而シテ私船之
ヲ奪回スル時ハ救賞金六分一ヲ以テシ又官船
之ヲ奪回スル時ハ十二分一ヲ以テス又奪回ス
ル所ノ船舶兵船ニシテ私船之ヲ奪回スル時ハ

司法省

定價ノ半高ヲ以テシ又官船之ヲ奪回スル時ハ
四分一ヲ以テス又政府ノ兵船ニ就キ此議定
ノ辭ニ因レハ船舶ト船貨ト同一ニ定價ヲ定メ
テ救賞ノ高ヲ算定ス然レ氏私船ニ就テ救賞ノ
定價ヲ定ムルニハ其船舶（奪回スル所）伊軍艦ニ戦装スルト否
トニ拘ラズ船貨ニ因テ之ヲ算定ス蓋シ此議定
中自然廢止セラレテ如此カ

爰ニ此規則ニ付英米ノ間大ニ異ナル知アルヲ
知ル可シ英國議院ノ定議ハ其奪回スル所ノ船
舶ヲ敵軍艦トシテ戦装スルニ非レハ縱令ニ没収

回復ラテス
三世シラルジ改律
ハ行レテリトテ後大
行ハルカキニテ

佛國奪回法

セラル可キニ屬スル時ト然レ原主ト奪回者ノ
間常ニ^{レヨスガストリ}歸國權アリ然レ氏承國公會ノ議定ニ歸
國權ハ貨物當然ノ裁廳ニ於テ没収ヲ言渡サレ
・迄テ存在シ已テニ此裁判ヲ受レハ原主所有
ノ權全リ断絶ス^亦是レ^亦英國ノ海上律ニレテ英
國人民ニ對シテ原主及國權ノ定律ヲ^{改正}回復セレ
迄テ行ハレレ規則トス

第百七十四條 佛國近時ノ奪回法ニ於テハ
若レ佛船二十四時間以上敵手ニ在ル後テ奪回
セラル、時ハ之ヲ奪回者ノ戦利トス然レ氏若
シ未タ二十四時間ヲ歴サル内奪回セラル、時
ハ船貨ト共ニ之ヲ原主ニ追還ス但レ私艦之ヲ
奪回スル時ハ救賞ヲ定ムル船價ノ三分之一ヲ以
テレ又官船之ヲ奪回スル時ハ三分之一ヲ以テ
ス然レ氏二十四時間敵手ニ在ルノ後テ官船之
ヲ奪回スル時ハ十分一ノ救賞金ヲ以テ船舶船
貨共之ヲ原主ニ追還ス

司法省

佛國轉覆ノ大乱前ノ規則ニ於テ維今ヒ二十四
時間ヲ歴テ後テ敵手ヨリ奪回スル所ノ佛貨ハ
公船私船ニ因テ奪回スルニ拘ラズ然レ戦利ト

レテ没収スルノ規則ナリト東氏然レ氏尔来佛
国ノ公船ニ因テ奪回スルノ貨物ハ追還スルヲ
以テ佛国一般ノ習慣トス一千七百七十九年六
月十五日ノ規則ニ敵手ニ在ル二十四時間ノ久
レキヲ歴テ後テ奪回セラル、ノ貨物ハ之ヲ没
収レ或ハ相當ト思量スル賞金ヲ奪回者ニ與フ
ルノ權ヲ有スル事アリ或ハ各場合ニ於テ其模
様ニ從テ国王救賞金ヲ随意ニ定ムルヲ得ルノ
條歟アリ

司法省

佛国ハ其同盟国ノ貨物ヲ奪回スル時自国ノ規
則ヲ施用ス故ニ嘗テ二十四時間ヲ歴テ後テ佛
国ノ私船西班牙国ノ船ニ没収セシ時之ヲ
戦利トレテ奪回者ノ為メニ没収セリ維レ一千
八百一年二月九日佛国戦利裁判官ノ決定トス蓋
レ此時若シ敵手ニ在ル二十四時間ニ前後ニ係
ラズ佛国公船ノ為メニ奪回セラル、時ハ佛国
人民ニ管スル習慣ニ從ヒ且ツ兩國友情ノ譯ヲ
以テ必ス之ヲ原主ニ追還セラレタルニ有ル可
キナリ

又佛国ノ法律ハ敵手ニ在ル二十四時間ヲ歴ル

ト茲氏若レ敵既ニ見捨テル所ノ貨物ナルカ或
ハ洋中尤難ノ為メ兵軍ノ奪回ヲ俟タス自然原
主ノ手ニ再後スル時ハ救賞ヲ辨ハレテ原主
ニ追還ス故ニ佛國一千六百八十一年ノ海軍律
ニ云ク若シ船舶ヲ奪回スルニ非スレテ敵既ニ
之ヲ見棄テタル為メ自然佛人ノ有ニ取スル時
或ハ敵捕撃シテ未タ之ヲ敵港ニ送ラサル前凡
彼若クハ自餘危難ノ為メ遂ニ佛人ノ有ニ取ス
ル時ハ縱令ニ敵手ニ在ル二十四時間ヲ過ルト
モ原主一年一日内ニ之ヲ請求シテ追還セラ

司法省

ルノ條款アリ「ボシル」氏云ク此條款ノ時ハ
敵船舶ヲ見捨テ之ヲ其港内ニ送ラサル前ノ場
合ニ於テノニ追還ヲ得セシムルノ權利アリト
解ス可カラス唯是レ通例起衆スル所ノ一例ヲ
示レタルニ過キナルナリ然レモ「ボシル」氏ノ説ニ
凡ソ法律ノ語ハ之ヲ其語ノ如ク明解セシムル
アル可カラス故ニ貨物敵港ニ入ル時ハ原主所
有ノ權全ク断絶シ又救賞ノ如キ種類ハ大ニ
難船ノ場合ニ類似シ而シテ奪回者ハ救助スル物
價三十分一ヲ討ムルノ權アリト又「ボシル」氏之

ヲ抗論シテ曰ク凡ソ如斯キ場合ニ於テ救賞ノ規則ハ法律ニ因テ預定ス可キ者ニ非ズ其救助スル功勞ノ大小模様ニ從テ時ニ之ヲ斟酌ス必ズ兵力ヲ以テ敵手ヨリ貨物ヲ救助レ或ハ難航ニ因テ亡テ所ノ貨物ヲ回復スルノ場合ト一保ニ論ス可カラサル也^エリコレ^レ氏モ亦此疑件ニ就テハ其説大ニ奈林氏ト反對ス

第三百七十五條 西班牙國ノ以前佛國ノ奪回法ヲ採用セシハ蓋シ佛國^{ボール}ホニ家西班牙國ノ王位ヲ継テヨリ尔表佛國ノ戦利法ヲ用ヒタ

司法省

ルニ出ル所トス^{サン}ギヤゴ^ゴ船^船ノ事件^ハボンタ^クリ^ユス^ス船^ノ事件^ニ於^テ前^ニ出^ツニ^於テハ互ニ相行^フ所^ヲ見^テ廢^置スルノ規則ニ因リ英國西班牙國ノ貨物ヲ奪回スル規則ノ如ク西班牙法ヲ用ヒタリ然レ^氏尔後一千八百一一年六月八日西班牙國友國ノ貨物ニ對スル戦利法ヲ變革シ即チ奪回スル所ノ船舶敵國ノ為^ノニ貨物ヲ積載スル者ニ非ズ而^テ之^ヲ公船^ノ為^ノ奪回セラルル時ハ救賞^ハ八分^一又私船^ノ為^ノニ奪回セラルル時ハ六分^一ヲ拂^ハシ^テ原主ニ追還セシム

ルノ規則トス但シ如此キ貨物所屬ノ友国ニテ
西班牙国へ對シ同様ノ處置ヲ用ヒ或ハ用ユル
トテ同意セシ時ニ非レバ如ク為ス可カラズ
又西班牙国奪回ノ規則ニ古法ヲ存スル者アリ
即チ敵手ニ在ル二十四時間ノ前後ニ係ラス西
班牙国ノ公船ニ因テ奪回セラル、時ハ救賞金
ヲ拂ハスレテ追還セラレ又二十四時間私船ノ
為メニ奪回セラル、時ハ救賞金三分一ヲ拂テ
追還セラレ又此時期ヲ過キテ奪回セラル、時
ハ奪回者ノ有ニ收スルノ規則トス又洋中ニ於

司法省

テ既ニ見捨テラル、所ノ捕物或ハ救賞金ヲ出
シテ原主ニ再復スルノ場合ニ於テハ其法佛国
ト異ナルトナレ

第三百七十六条 葡萄酒一千七百四年同九十
六ノ法律ハ佛国及ヒ西班牙国ノ奪回法ヲ用ヒ
タリ然レ氏一千七百九十七年五月「サンタクリ
ス」船捕奪セラル、ノ後及ヒ此事件ニ於テ英國
海軍裁廳ノ裁判言渡シ前葡国前則ニ復レタリ
此前則ハ敵手ニ在ル二十四時間ヲ以テ全ク原
主ト所有ノ權ヲ絶ス而シテ此時期ヲ過キテ公

船ノ為メニ捕奪セラル、時ハ八分一私船ノ為
メニ捕奪セラル、時ハ五分一ノ救賞金ヲ以テ
追還セラル、ノ規則トスガニタリリユズ船及ヒ
其類屬ノ事件ニ於テ斯果德氏一千七百九十七
年五月ノ規則前後ヲ以テ奪回ヲ區別シ即チ此
規則施行ノ前奪回レテ既チ二十四時間敵手
ニ在ル者ハ之ヲ没収シ又此規則施行ノ後奪回
スル者ハ葡萄国ノ法律ニ因テ定ムル救賞金ヲ
拂ハレノテ追還ス

和蘭奪回法

第三百七十七條 和蘭ノ古法ハ貨物敵手ニ在

司法省

ル時間ノ長短ニ後テ救賞ヲ拂ハレメ追還スル
ノ規則トス

暹国奪回法

第三百七十八條 暹国ノ古法ハ貨物敵手ニ在
ル二十四時間ヲ歴レハ之ヲ没収シ敵手ニ在
ル未タ此時間ニ及ハサル者ハ貨物ノ定價ノ半
高ヲ以テ追還ス然レ氏一千八百十年三月廿八
日ノ法律ニ貨物敵手ニ在ル時間ノ長短ニ管ラ
ズ貨價三分之一ノ救賞金ヲ以テ暹国或ハ同盟国
ノ貨物ヲ追還スルノ規則トス

瑞典^典奪回法

第三百七十九條 一千七百八十八年瑞典^典西国ノ

戦利法ニテ戦艦トレテ戦艦ノ論

法律ニ瑞國貨物ノ救済金ニ敵手ニ在ル時尙ノ長短ニ係ラズ貨價ノ平高ヲ以テ追還スルノ條款アリ

第三百八十条 戦艦トレテ戦艦スル船舶トハ何ヲ以テ定ムルヤ即チ英國戦利裁廳ニ於テハ之ヲ議院ノ定例中ノ條目ニ從テ決定ス議院ノ定例ハ我カ自國ノ法律ヲ解明スル所ニレテ具條目英米兩國異ナル事ナレ故ニ一船舶元來奴隸貿易ノ為ノニ艦装スル者ニレテ捕撃ノ後チ更ニ船中幾多ノ人民ヲ増スト或ハ戦争ノ免狀無

司法省

ク又増加スル幾多ノ軍器與キ時ハ此定例ニ於テ之ヲ戦艦トレテ艦装スル船舶ト爲サ、ルナリ然レ氏船中教門ノ大砲ヲ具フル時ハ即チ之ヲ戦争ノ免狀アル者ト決定ス又船舶捕撃ノ後チ既テニ捕船トレテ艦装スル時ハ維今ニ之ヲ奪回スル時商船トレテ航スルト或ハ之ヲ戦艦トレテ決定ス是レ捕撃セラル、ノ船舶一度ニ戦艦ニ變スルヲ以テ後前ノ性格ヲ失フ力故ニ立法ニ於テ變ニ決スルノ外アル可カラズ原主所有ノ權全ク消失マレ者ト考定ス又若レ

戦利法ニテ戦艦トシテ戦艦ノ論

法律ニ瑞^国貨物ノ救済金ハ敵手ニ在ル時尙ノ長短ニ係ラズ貨價ノ平高ヲ以テ追還スルノ條款アリ

第三百八十條 戦艦トシテ戦艦スル船舶トシテ何ヲ以テ定ムルヤ即チ英國戦利裁廳ニ於テハ之ヲ議院ノ定例中ノ條目ニ從テ決定ス議院ノ定例ハ我カ自國ノ法律ヲ鮮明スル所ニレテ其條目英米兩國異ナル事ナレ故ニ一船舶元來奴隸貿易ノ為ニ戦艦装スル者ニレテ捕撃ノ後チ更ニ船中幾多ノ人民ヲ増スト至ルニ戰爭ノ免狀無

司法省

ク又増加スル幾多ノ軍器與キ時ハ此定例ニ於テ之ヲ戦艦トシテ戦艦装スル船舶ト爲サ、ルナリ然レ氏船中教門ノ大砲ヲ具フル時ハ即チ之ヲ戰爭ノ免狀アル者ト決定ス又船舶捕撃ノ後チ既テニ捕船トシテ戦艦装スル時ハ維今ニ之ヲ奪回スル時商船トシテ航スルト至ルニ之ヲ戦艦トシテ決定ス是レ捕撃セラル、ノ船舶一度ニ戦艦ニ變スルヲ以テ後前ノ性格ヲ失フカ故ニ立法ニ於テ變ニ決スルノ外アル可カラズ又原主所有ノ權全ク消失マレ者ト考定ス又若シ

此處ニテモ亦英國ノ法トハナク

船舶敵ノ海軍宰相ノ差圖ヲ以テ敵ノ軍用ヲ勤
ノタル者ト見ユル時ハ之ヲ戦艦トシテ搬スル
ノ確証トシテ決定ス又若シ船舶軍器ヲ備ヘ而
ノ之ヲ使用スル當然ノ權威アル敵ノ将官ニ因
テ軍用ニ供セラル、時ハ縱令正シク戦争ノ
免許ヲ受サレ者ト云モ亦戦艦トシテ決定ス蓋
シ唯敵ノ軍事ニ用ヒラル、ノ一事ノミヲ以テ
戦艦ト決スル能ハス然レモ爰ニ軍事ニ用ユル
船舶ヲ指揮スル權威アル者ト推定スルノ正証
アリテ更ニ其處置ニ付キ不明ノ廉之ナキ時ハ

司法省

裁廳ニ於テ即チ十分戦艦ヲ指揮スルノ權威アル者ト考定ス一船舶ノ指揮官ハ一船隊ノ指揮官ト同權ヲ有スル者ト考定セラル、ナリ
第三百八十一条 凡ソ免状ナキ船舶ニ因テ奪回ヲ行フハ救賞金ヲ與フルニ一モ妨ケアル可カラズ戦時各民其同國ノ民ヲ助ケテ貨物ヲ敵手ヨリ奪回シテ相共ニ助クルハ元ヨリ各人民ノ義務トス故ニ如ク用ヒラル、人民ニ救賞ヲ需ムル權ヲ与フルニ一ノ免状アルヲ要スルヲナレ是レ如斯キ実功アル義務ニ付テハ固ヨ

免状ナキ船舶ニ
因テ奪回スル論

リ法律ノ許ル所トス又若レ一旦敵ニ捕拏セ
ラレタル護送船ヲ我カ護送船ニテ奪回スル時
ハ奪回者救賞ヲ需ムルノ權アリ然レ凡一般ノ
有益ニ設クル船舶ノ救助ハ一モ救賞ヲ需ムル
ノ權ヲ有スルナシ

司法省

第三百八十二條 奪回ニ付人ニ救賞金ヲ
 取ルノ權ヲ有セシムルハ必ス爰ニ実地明
 確^{ナル}捕拏^ノ既^ニア^ラサルヲ得ス是レ元來戰^ミ
 時^{タル}ノ救賞^ハ実ニ貨物ヲ敵ヨリ奪回ナサバ
 ルノ場合ニ於テハ之ヲ與フルヲ許サ、ル
 テ以テナリ蓋シ亦爰ニ敵真ニ貨物ヲ掌握
 スルヲ以テ必ス至要トスルニ非ス貨物唯
 十分敵ノ支配中ニアルヲ以テ足レリトス
 然レ氏若シ船舶不幸ニシテ敵港ニ行ク片
 捕拏セラル、モノヲ救助スル時ハ是レ只
 奪回

司法省

平時^ニノ救賞^ニシテ戰時ノ救賞ト云フ可キ
 者ニ非ル也然レ氏奪回ト做スニハ其奪回
 者貨物ヲ真ニ掌握スルヲ要セス只貨物ノ
 敵手ニ入ラントスルヲ救フヲ以テ十分ト
 ス若シ夫レ敵船一旦捕拏セラレテ後并敵
 之ヲ奪回シ而シテ我復タ敵ヨリ之ヲ奪回ス
 ル時ハ前捕者救賞ヲ拂^得ハレテ^又貨物ヲ原主
 ニ給還スルノ權アル可カラス即チ後チヨ
 捕者戦利ノ全權ヲ取有ス是レ再度敵手ヨ
 リ奪回スルニ因テ既ニ前捕者戦利ノ權全

リ断絶ス又若シ前捕者其捕貨ヲ棄却シ徒
テ他人之ヲ捕拏スル時ハ後チノ捕者ノミ
貨物ノ推チ有ス然レモ若シ捕貨ヲ棄却スルハ
元來故意ニ出ルニ非ス全ク多勢ノ強カテ恐
レ或ハ殊トニ第二捕者ノ匿為ニ因テ起ル時ハ
前捕者ノ權十分恢復ス又若シ敵我カ秘密ヲ
捕拏シテ後チ其秘密ヲ棄却シ我之ヲ奪回スル
時ハ蓋シ原主尚ホ之ヲ棄却スルノ意ナキヲ以テ更
ニ原主ノ棄却スルモノト考フ可カラス故ニ救済
ヲ拂ハシメテ原主ニ給還ス然レモ是レ完ク戦利法

司法省

中ノ奪回ト云フモノニアラサルヲ以テ救済ノ方為素ヨリ
一定セサルナリ戦利法中ノ奪回トハ敵我カ兵力ナ
恐レテ勢ヒ遂ニ捕貨ヲ棄却スルモノヲ云フ又若
シ捕者其捕貨ヲ見捨テタルニ後チ中立国ノ救
者之ヲ携テ已レノ港内ニ入ル時ハ即チ中立国ノ海
軍裁應ニ於テ救済ヲ議決シ之ヲ戦争国ノ原主ニ
給還スルヲナシ是レ貨物一旦捕者ノ有ニ帰スルヲ
以テ中立国^{ヨリ}当然異論スヘカラサル所有ノ權
ヲ得ル者トス故ニ救済ヲ引テ残ル全貨ハ尽ク捕
者ノ有ニ帰シ中立国ノ民戦争国人民ノ間ニ立テ

捕拏正突ノ訖査テ為ス能ハサルナリ」然レ氏若シ
捕者其捕船ヲ中立国ノ私夫ニ賜與スル片ハ私夫
即チ救者トナリテ^報救^賞金ヲ受ケ其残ル全貨ヲ
戦争國ノ原主ニ還附スル一ニ決定セラル可シ
氏ノ捕者ノ權利ハ爰ニ稍例外ノ事アリト虽氏敵
ノ奪回或ハ捕拏スル私私ノ逃走或ハ故意ニ之ヲ
放免スルヲ以テ全ク脱却ス抑モ之ヲ捕者權利ヲ
失フノ通則ト為スト見ヘタリ其規則ハ敵ノ救助ニ
於テモ適用セラルト虽氏若シ中立国私私ノ船
夫ニテ其救助ヲ為ス片ハ没収ノ罰ト為ス可キ

司法省

此キ不正ノ所為ナルニ就テ其私私ヲ奪回ス
ル時捕者ノ戦利裁願ニ於テ捕者ノ權利ヲ脱
却スルニ由何ニ裁決ス可キヤ是レ大ニ疑フ可キト
トス

第三奪回或救
助或給還ニ付キ
救賞ノ事

第三百八十三條 能令ヒ奪回者救賞ヲ付ムル權
利ハ就テ敵ハ奪回スル没収ノ言渡ニ因テ原主所
有ノ權ヲ脱シ後テ救賞ヲ討求スルノ權消却ス
ルト虽氏然レ氏爰ニ若シ敵國裁判ニ因テ放
免ヲ受ルカ或ハ敵國ノ王權ニ因テ赦宥セラ
ル、カヲ以テ私私給還セラレ再ヒ以前ノ如ク海

救賞金ノ高

旅ヲ流ク時ハ奪回者救賞ヲ需ムルノ權利再
ヒ恢復ス即チ奪回者及ヒ救者ハ当然ノ裁願
ニ於テ別ニ裁判アルニ非サレハ他人ノ奪フ可カ
ラサル貨物ノ利益ヲ得政府ノ私私或ハ官吏
或ハ其他ノ者モ威權ヲ以テ謂レテク救者奪
回者ノ推テ奪フ可カラサルナリ

第三百八十四條 定律ニ因テ救賞ノ高ヲ
定ムル能ハサル場合ニ於テハ他ノ場合ニ於
ル如ク奪回ニ於テモ即チ裁願ノ模定スル
取トス若シ人奪回ノ上戦利法ニ依テ戦時

司法省

ノ救賞ヲ討ムルノ權アリ而シテ其奪回者後
チ海上ノ危難ヲ救助シ非常ノ功勞ヲ作シタ
ル片ハ裁願ニ於テ加フルニ平時ノ救賞ニ注
意ス可キトス

第三百八十五條 海上捕拏ノ正実ナルトハ
必ス捕者ノ本国或ハ其同盟國中ニ在ル捕者
取為^屬ノ戦利裁願ニ於テ決定スル規則ハ捕
拏其捕者本国ノ港内或ハ同盟国ノ港内或
ハ中立国ノ港内ニ帶進スルニ敢テ異ナル

捕者本国ノ裁
願ニ於テ海上捕
拏ヲ裁決スル事

同盟国ノ港内
ニ在ル貨物及
収ノ事

中立国ニ帯進
スル貨物ノ事

第三百八十六條 其一捕者本國ノ港内ニ帯進
シテ本國ノ裁廳ニ於テ裁判スルハ元ヨリ疑フ
所ナシ。其二同盟國ノ港内ニ帯進スル時ニ於テ
ハ後令ヒ其同盟國ノ裁權ヲ以テ審判スルハ能
ハスト。但ニ敵對ノ如キ所為ヲ准ルスルハ
戰争國ノ没収ハ即チ他戰争國ノ没収ニシ
テ其政府ニ對シテ更ニ妨クル所アル可カラス。
固ヨリ同盟國カシテ戰フ片ハ兩國政府ノ間同
身一體ノ如キ者ニシテ送ヒニ兵カヲ援助シ俱
ニ海港ヲ使用ス可キ者トス故ニ同盟シテ他國

司法省

ト戦ヒ以テ捕獲スル貨物ヲ同盟國ニ帯進シテ
裁判ヲ為スニ至テハ之レヲ当然ノ裁判ト云フ
可キナリ

第三百八十七條 然レハ貨物ヲ中立國ニ帯進
スル片ハ捕者ノ本國ニ在ル戦利裁廳ト雖モ其
捕撃ノ正実ナルヲ決定シ得可キヤ亦大ニ疑フ
可キニ似タリ。チユベリック艦及ヒ「マリヤ」船ノ事件
ニ於テ斯果德氏道理ヲ論シテ云ク此事元ヨリ
慣習ノ不規則ナル者ニ属スルト。但ニ從來英國
海軍裁廳ニ於テ中立國ノ港内ニ在ル捕撃ノ船

私ヲ没収スル習慣ハ最モ久シキヲ歴ルモノニ
シテ今之レヲ真理純碎ノ規則ニ改メシトスル
ハ既ニ難シトスル取ナリ又此事件ニ付控訴
ノ裁判ヲ言渡ス時ハ^ワル^エ、^クラ^ンド^氏云ク英國ハ
古来ノ習慣ニ由テ裁決ス英國裁察ノ裁判ヲ以
テ没収ノ言渡シテ受クル貨物ハ中立國ノ商賈
之レヲ買取ルトモ必ラス妨ケアル可カラサル
一ヲ証明セリ此規則ハ米國上裁察ニ於テモ採
用スル所ニシテ畢竟戦争國及ヒ中立國ヲ使用
スルニ出ル所トス然令ヒ捕貨中立國ノ疆内ニ

司法省

入ルト魚^氏尚ホ捕者ノ權内ニ在リテ捕者ノ之レ
ヲ領スルハ其主君ノ權内ニ属スル者ト考定ス
第三百八十八條 凡ソ捕者本國政府ノ權威ヲ
以テ戦際捕拏スル貨物ヲ決定スル捕者本國ノ
裁權ハ固ヨリ他國ノ裁權ヲ問ハス更ニ專權ヲ
有スル者トス然レ^氏爰ニ此權ヲ限制スル者ニ
アリ一ニ曰ク中立國疆内ニテ捕拏ヲ行フ事ニ
ニ曰ク中立國ノ疆内ニ於テ戦艦ヲ^機シ捕拏ヲ
行フ事

此場合テ何レニ於テモ中立國ノ裁察ニ於テ捕

拏ノ正否ヲ裁決スルノ權ヲ有シ己レノ民或ハ
友國人民ノ貨物ヲ原主ニ給還シテ以テ局外ノ
權利ヲ保全ス捕者本國ノ裁權ヲ限制スル如ク
キ例外ノ規則ニ或ル國ノ地方律法ニ於テ不正
ニ捕拏シテ其港内ニ帶入スル其國民ノ貨物ハ
之レヲ裁判シテ原主ニ給還スルノ規則アルニ
出ル所ニシテ即チ捕貨中立國疆内ニ入ル片ハ
中立國ノ裁權ニ於テ其捕スヘキト否トテ裁決
スルノ權アルヲ推定スル所トス又一千六百八
十一年仙國ノ海軍律中ニ如斯キ規則ヲ存ス登

司法省

林氏云ク之ヲ公平ノ所置トス蓋シ是レ捕者捕
貨ヲ携テ中立國ノ港内ニ入ルヲ許サル、為ノ
我亦之ニ報スルノ原由ニ帰スル所トス中立國
捕貨ヲ携テ其港内ニ入ルヲ或ハ准ルシ或ハ禁
スル其便ニ從テ之ヲ定ムルニ宜シク各戰争國
ニ對シテ公ヲ秉リ偏視ス可カラサル也而シテ
若シ其入ルヲ准ルス片ハ必ス中立國ノ裁權ヲ
用ユル事ヲ明言ス可キ也但中立國ニ入ルヲ准
ルスノミニテハ如ク約定ヲ含畜スル者ト云
フ可カラス如ク許可ヲ得ルノ捕者ハ捕貨所

有ノ權ヲ失フニ非ス尚ホ其本国ノ戦利裁願ニ
於テ捕拏ノ正否ヲ決スルノ權ヲ有スルナリ
本國ノ裁權ハ捕貨中立國ノ港内ニ在リ或ハ夫
ヨリ裁願在ル捕者本國ノ城壘中ニ帶回セラル
、且必ス施行セラル、也右何レノ場合ニ於テ
モ債主中立人タルモ亦捕船捕貨ヲ帶進スル國
民ノ請求モ一般戦争國ノ戦利願ニ於テ之ヲ裁
決ス其捕貨ノ戦利ニアルト非ルトハ独リ戦争
國ノ裁權ニアルノミ

第三百八十九條 以裁權ハ中立國ニ在任スル

司法省

代理ニ於テ施行スル能ハス即チ中立國ノ港内
ニ在ル領事館及ヒ其他捕者本國ノ指揮ヲ受テ
弁理スル者等以裁判ヲ為スノ權ナレ又戦時捕
拏ノ事件ニ於テ裁判ヲ為スノ權利ハ中立國ヨ
リ其疆内ニ在ル戦争國ノ代理ニ委託スル能ハ
ス蓋シ捕拏ノ為メ中立國ノ權利及ヒ王權ヲ破
ラル、ニ非レハ決シテ中立國ニ於テ如キ裁
權アルニ非ル也故ニ中立國ノ港内ニ在ル戦争
國ノ領事ニ因テ没收ノ言渡シヲ為スト虽其
戦利トシテ捕拏スル私私貨物未タ誰ノ有タル

ヲ断スルニ足ラサルナリ

司法省

免状ヲ有スル船
及ヒ裁廳所為
ニ因テ捕者政
府ノ責任ヲ受
ル事

才三百九十條 凡ソ捕拏スル本國メ裁廳
ノ裁權ハ即チ捕貨ノ支件ヲ断決ス故ニ其
裁斷ニ因テ捕者討者及ヒ兩者ニ屬ス凡者
其断決ヲ歴レハ最早捕拏ノ正否ニ就テ論
スルコト能ハス捕拏支件ノ裁判是ニ於テ全
ク了結ス然レモ其裁判ニ因テ捕者ノ責任
既ニ了ルヤ又移テ一國ノ責任トナルナリ
夫レ捕者ハ免状ヲ得テ貨物ヲ捕拏シ又
裁廳カ戰時捕拏手ノ正否ヲ决断スルノ權アル
ニ依テ之ヲ決定ス故ニ此捕拏ヲ為シ此决

司法省

定ヲ了リテ後ハ一國他國ニ對シテ其責任
ヲ免レサレナリ

外國裁廳ニ於
テ不正ノ言渡
ヲ為ス事

第三百九十條「クロシユス」氏云ク凡ソ外國
人ニ對シテ害ト為ル可キヤフ其權利ニ
及シテ裁判ノ言渡シヲ為スハ即チ外國
カラ用ヒ強價ヲ行フノ權ヲ所有ス蓋シ裁
官ノ權ハ其自國ノ民ニ行フ如ク之ヲ外人
ニ對シテ同様ニ行フ能ハス彼我爰ニ異ナ
ル所アリ自國ノ民ハ縱令ヒ不正ノ裁拏
ヲ受ルト虽モ氏カラ用ヒテ其權利ヲ回復スル

能ハス又正然其裁判ニ抗拒スル能ハス必
ス其言渡シニ服従セサルヲ得ス是レ其国
ニ居テ其保護ヲ受ルニ至テハ又勢ヒノ然
ラシムル取トス然レモ外国人ニ至テハ強
テ理直ヲ求ムルノ權アリ即テ強候ヲ行フ
ノ類然レモ正理当然ノ道ヲ以テ權利ヲ討
ムルヲ得可キ時ハ必ス妾リニカテ用ヒ強
候ヲ行フ可カラサル也

賓克舍氏右ノ事件ヲ論シテ云ク不正ノ裁
判ハ強暴ヲ行フト同一ニシテ此国ノ民後

司法省

国ノ裁歴ニ於テ害ヲ蒙ル時ハ此国ニ於
テ強候ヲ行フ可キヤ吾得氏云ク我ニ於テ
強候ヲ行フ可キニ至ル彼レ公義ヲ欠キタ
ル数多ノ方法ヲ收挙シテ我ニ於テ現然不
正不公ノ裁判ヲ受タルニ非レハ之ヲ行フ
可カラサルトテ論シタリ必ス小故疑件ノ
原由ニ因テ其裁判ニ服セカルト為ス可カ
ラス然レモ亦外国人ニ對シテ回復ヲ需ム
ルヲ得ケルニ非ルナリ

故ニ歐洲各國ニ於テハ屢々和約シテ強候

地方裁願ハ裁
利裁願ト云アル
ノ儀

チ行フ片ノ規則ヲ定メ真ニ公義ニ遠フ片
ノ外之ヲ行ハサルノ條目ヲ設ケタリ裁判
不正ノ言渡シハ即チ其没収ノ前ハ査セラ
ル、事實悉ク公義ト考フ可カラサルニ非
レハ之ヲ真ニ公義ニ遠フモノト考定ス可
第百九十二條 地方裁願ハ裁利裁願ト云
アリ地方裁願ニ於テ不正ノ裁判ヲ為スト
魚氏強候ヲ行フノ事由ト為ステ得ス地方
裁願ハ元來其國法ニ憑テ裁決ヲ為シ又裁
利裁願ハ條國ニ依テ因テ本國人外國人ヲ

司法省

裁判ス是レ抑レ兩裁願ノ異ナル所ハ蓋
シ地方裁願ハ外國人ト魚氏其曰意ニ由テ
ハ其人其債ノ裁判ヲ為ステ得ルナリ此曰
意ハ自ラ需メテ明瞭ニ裁判ヲ乞フニ因リ
或ハ其人其債ヲ疆内ニ齎ラスノ所為ニ因
テ暗ニ其意ヲ示スニ因テ審断ハ然レモ裁
利裁願ハ海上捕拏ノ訟庭ヲ裁判スルノ權ア
ルヲ以テ素ヨリ外國人ノ債物ヲ強テ其裁
願アル国内ニ携帶シ來ルナリ凡ソ天理ヲ
按スルニ捕者本國ノ裁利裁願ハ裁時大洋

ニ於テ中立国ノ旗号ヲ以テ航スル船舶ヲ
捕拏シテ之ヲ裁判スルノ専権アル可カラ
ス如キハ中立国ノ裁一能ヲ以テ更ニ当然
ノ裁権ヲ有スルモノト為ス可シ公法ノ真
理ニ於テ如ク強カク用ヒテ為スノ裁判
及ヒ英國ノ主権ヲ以テ彼国ヲ裁判スルハ
固ヨリ其公平ヲ得可ク又偏視ヲ免レ
難キカ故ニ如ク裁一廳ノ処置ヲ行フヲ禁
スルニアル可キ也然レモ實地ニ涉リテハ
裁一能又々法ニ因テ如キ戰事ノ捕貨ヲ裁

司法省

判スルノ権ヲ有セサルヲ得サルナリ蓋シ
現今ノ有様公法尚ホ未タ完タカラス不正
ニ中立国ノ貨物ヲ奪掠シテ之ヲ裁判シ其
処置宜シカラサルヨリ遂ニ中立国政府ノ
請求ヲ受ケ其人民ノ為メニ賠償ヲ需メテ
凡ニ當リテ未タ之ヲ妨拒スル能ハサレ
也抑々戦利裁一廳ハ戦争国ノ君主其臣下委
任ノ捕船ニ因テ勉ムル所為ノ責任ヲ受ル
ヲ免レシメン為メニ制之スル所^非必^テ即
チ其責任ニ為ルト否トヲ決定スル所トス

夫レ捕虜ノ責任ハ捕拏ノ委任ヲ受ル君主
ニ對シテノミノ責任トス故ニ捕者多ク疑
フ可キ道理アリテ貨物ヲ捕拏シ又常格ニ
由テ之ヲ裁判シ而シ其捕者ノ所為ヲ戦利
裁應ニ於テ裁決スル迄テハ中立國其事件
ニ付キ未ク訴フルノ原由アル可カラズ又
必クタシテ國君其責任ヲ受ルハ戦多國捕
拏ノ權利ヲ施スニ當テ必ス適ル可カラサ
ル事實トス然レモ浩局裁應ノ裁判言渡シ
ニ因テ公義終ニ破ラル、片ハ捕拏及ヒ後

司法省

叔ノ所為更シテ一國ノ所為ハ變シ國君即
チ討主ノ政府ニ對シテ其責任ヲ免レサル
ナリ裁應所為ノ為ノ外國政府ニ對シテ國
君ノ責任トナルハ勿論不規則ニ做スニ非
ルナリ是レ各國交際上ニ於テ一國他國ニ對
シテ冤ヲ認ムハ強僥ヲ行ヒ兵ヲ興スノ原由
トナルニ過キサルナリ戦利裁應ノ所為ハ國君
ノ所為ニ帰スルノ公アル可カラズ國君ノ
所為公法ニ適ハサル片ハ其臣民ニ對シテ
責任ヲ受ルル魚氏他國ノ人民ニ對シテ責

任ヲ受ル者ト考定スル能ハス他国ノ人民
ニ對シテ為シタル害ニ從令ヒ其事国君ノ
直令ニ出ルモ或ハ裁願ノ存為ニ出ルモ即
チ彼国ノ政府ヨリ此国ノ政府ニ對シテ歎
詎ヲ為スノ原由トナルナリ一國ノ裁願ハ
即チ政府ノ一部分タリ一國ノ政府不正ノ
存為ヲ作スニ至テハ此害ヲ受タル被国人
民ノ為メニ必ス彼ノ政府其恢復ヲ討ムル
ノ権アリ一國ノ人民官吏或ハ裁願ニ由テ
為ス不正ノ存為ハ其国君ニ對シテ責任ヲ

司法省

免レスト虽モ外国政府ニ對シテ責任ヲ受
ルニ非ス外国政府ヨリハ更ニ此国ノ政府
ニ對シテ其罪ヲ問フ可キ也此道理ハ又
公法著者ノ年稿及ヒ史傳ノ條例ヲ按テ更
ニ一層之ヲ尤ニ確定ス

第三百九十三條
リユツセルホルス氏云ク凡ソ一國
捕貨ヲ裁判スルノ專權ハ畢竟捕者一船ノ免狀
或ハ特別ノ免狀ヲ得テ戰時為ス所ノ隻ニ就キ他
國ニ對シテ一國總テ其責任ヲ受ルヲ以テ捕者ノ所
為ヲ糾查スル權利ニ基テ制立スル所トス故ニ一國
捕者ヲ裁判スルノ權アルニ因リ爰ニ大洋中ニテ船舶
貨物ヲ捕擄スル時ハ必ス之ヲ捕者本國ノ港内ニ帶進
シテ其斷ヲ仰カサル可カラス一國ノ裁判ヲ以テ其捕擄
ノ正理ニ在ルト非ルトヲ決スル迄ハ必ス貨物捕者ノ
有トナル能ハサルナリ此隻件ヲ決スル捕者本國ノ

司法省

裁權ハ美ニ專權ニシテ全ク其本國ニテ糾查ヲ究ム
ル迄テハ他國ヨリ決シテ其捕者ノ所為ニ就テ請求ヲ討
ムル能ハス是レ他國ノ捕者ヲ裁判スルノ權ナク又捕者ノ
行ノ所ニ就テ責任ヲ受ル者ニ非ルヲ以テナリ然レモ捕
者ノ本國ニテ其國民ノ所為ヲ糾查シ既ニ捕擄スル所
ノ船舶貨物ノ正理ニアルト非ルトヲ判決スルト雖モ亦タ
此隻件ニ付勢ヒ其國民ト其貨物ヲ請求スル外國トノ
間ニ生スル疑件ヲ裁決セサル可カラス此爭論ハ大洋中
ニ於ルノ外自國內ニ起ル事ナレ故ニ此隻件ニ施行スル
ノ權利ハ民法ノ裁權ニ非ス民法ハ其本國ニ固有スル

モノニシテ如此キ争論ヲ處置スルノ法律ニアラサルナリ
其争論ヲ生スル場所及ヒ此ニ管係スル人民モ必ス民法
ニ服ス可カラサル也如斯キ争論ヲ裁決スルハ独リ萬國
公法ヲ用ユルノ外アル可カラス然レモ爰ニ捕者ト討主ト迭
ヒニ公法ヲ離レテ別ニ遵守ス可キ規則ヲ設ケ兩國約
定ヲ以テ之ヲ取結フ時ハ敢テ亦公法ニ頼ルニ非ルナリ
蓋レ此約定ハ唯其兩國ノ交際ニ於テノミ用ヒラル、ノ
法律タリ故ニ捕者ノ本國ニテ捕撃ノ正理ニアルト非ルト
ヲ決セントスルニハ即チ其約定ニ因リ公法ニ照シテ判決
ス但レ捕者本國ノ裁權ヲ以テ未ダ十分ノ裁判ト云フ可

司法省

カラス捕者ハ其本國ノ裁判ヲ受ケテ裁判既ニ誤ル所
アリト雖モ弊ヒ之ニ服セサルヲ得ス故ニ捕者ニ取テハ
其裁判ヲ更ニ十分ト為スト雖モ之ニ對スル外國人ニ取
テハ唯公法ニ適シ約定ニ合スル所ノミ其裁判ニ服従ス
是レ元ヨリ捕者ノ本國ニ於テ外國人或ハ争論ノ原由
タル貨物ニ就テモ裁判ヲ為スノ權ヲ有セサルニ出ル
所トス故ニ外國人公義ノ裁判ヲ受サル時ハ即チ之ヲ其
身ノ本國ニ訴テ以テ賠償ヲ討ムルヲ得可キ也此時即チ
其本國ニ於テ公法ニ循テ或ハ強償ヲ行ヒ或ハ公戦ヲ
以テ当然ノ賠償ヲ為スナリ討主若シ公義ニ非ル

裁判ヲ其本國ニ訴フルヲ決スルニハ外國ニテ裁判ヲ悉ク
罷ノタル上ニ非レハ之ヲ訴フル能ハス此裁判ヲ究ムルノ權
利ハ捕者本國ノ任ニシテ捕者ノ所為ヲ全ク究査スル迄テ
此權利尚ホ未タ了リタルト云フ可カラサルナリ一國捕者
ノ責任ヲ受ルハ其所為ヲ詳細究査シタル上ニ非レハ責任ヲ
受ルノ理アル可カラス故ニ通商國各國ニ於テ捕貨ノ正
理ニアルト非ルトヲ審決スルニハ唯海軍小裁廳ヲ置クノミ
ナラス尚ホ其裁判ヲ經テ意ニ適セサル時控告シテ以テ其
屈ヲ伸ヘレシムルカ爲メ更ニ又大裁廳ヲ置クヲ以テ一般
ノ風習トス凡ソ中立國ノ人民ハ外國小裁廳ノ枉折

司法省

ヲ經ルト虽モ爰ニ自餘幾多ノ大裁廳在ル時ハ之ニ控
訴シテ以テ更ニ覆審ヲ受ケ大裁廳悉ク前小裁廳ノ裁
判ヲ確定スル上ニ非レハ必ス冤ヲ自國ニ訴テ賠償ヲ討ム
ルノ權アル可カラス此裁廳ハ何レモ捕者ノ所為ヲ審査スル
爲メニ設クル者ニシテ此各廳ニ於テ全ク糾査ヲ遂ゲサ
ル内ハ未タ一國裁判ノ權了ル者ト云フ可カラス此各廳ニ於
テ小裁廳ノ裁判ヲ確定シテ枉折ニ決スル時始メテ中立
國ノ討主之ヲ其身ノ本國ニ訟ヘ以テ賠償ヲ討ムルナリ
然レモ妄リニ訴フルヲ得ルニ非ス公法ニ於テ討主美ニ枉
折ヲ經テ冤ヲ伸フルノ道ナキニ非レハ其賠償ヲ得ルノ

レレレアールン負
ノ事件ニ付報達ノ
事

權ナレ如此ク漸次順ヲ經テ討主其本國ニ訴フル時ハ抑モ之ヲ
兩國爭論ノ基ト為スナリ然レ氏天理ニ於テ各人民ニ如
此キ事ヲ為スヲ許ルスト強氏勢ニ已ムヲ得サル
迄テハカヲ用ユルヲ忌避ス故ニ中立國ノ主宰其
強償ヲ用ヒ公戰ニ及ホス前他國ノ主宰ニ訴ヘ以テ
正然報告ノ趣旨ヲ満足レ何故尚ホ正理ヲ以テ裁
判ヲ為サ、ルヤヲ詰問シ再ヒ其正否ヲ試ム可キ
トヲ要務トス

第三百九十四條 一千七百五十三年英國政府ニ
呈シタル有名ノ報達ハ即チ英國ハ捕船普國

司法省

人民ノ貨物ヲ捕奪セシニ目リ普國王許レテ
強償ヲ行ヒ捕者ノ本國ニテ捕奪ノ裁權ヲ有ス
ルヲ確定セシ事件ニシテ其報達中ニ云ク凡ソ
公法ハ公義至理ニ基テ制立スルカ故ニ一國ノ裁聽
ニ於テ全ク公義ニ背戾シ法ヲ枉テ折決レ後チ國
君之ヲ確定スル時ノ外必ス強償ヲ許ルス可キ
モノニ非ルトヲ記載セリ即チ此報達書ヲ記載
セシ明師ノ說ニ一國ノ各裁聽悉ク公義ヲ破リ
後チ其國君之ヲ確定セシ時ハ即チ其國ニ對シ
テ強償ヲ行フノ正理アルトヲ明瞭ニス彙得

耳氏モ亦同論ニシテ同氏已レノ説ヲ一層明確
ナラシメシカ爲メ右ノ報違書ヲ援キタルヲ以テ
其説ノ同シキヲ知ル可キナリ夫レ一國ニ對シテ
強償ヲ行ヒ歎訴ヲ爲スハ其國ノ各裁廳ニ於
テ全ク公義ヲ失ヒ規律ヲ破リタル一更ニ判然
明確タル時ノ外決シテ容易ニ之ヲ施ス可カラズ
ト是レ同氏ノ論スル所ナリ

右ノ事件ニ就テ當時普國ハ中立國ニシテ普王其
國內ニ一廳ヲ開キ以テ英國戦利裁廳ニ於テ普民
ニ對シ言渡シタル裁判ヲ再ヒ査査セシテ企テ

司法省

タリ此義英國政府ニ報達セシ記者論シテ曰ク如
此キ例未ダ聞カサル所ニシテ捕貨ノ正理ニアル
ト非ルトヲ審決スルハ元ヨリ捕撃ヲ行フ捕者本
國ノ海軍裁廳ニ於テ決スル所ニシテ實ニ此義ノ
如キハ奇異ノ新法ト云フ可キ也然レモ局外ノ
外國君主ハ公法ニ從ヒ或ハ約定ニ依テ其臣民
ノ爲メ海軍裁廳ニ對シテ公義ノ裁判ヲ望ムノ
權利アリ故ニ若シ公法ニ反シ約定ニ背キタル
裁判ヲ受ル時ハ中立國ヨリ如此キ決定ヲ歎訴
スルノ權アルヲ記載セリ

一千七百九十四年英
米約定レテ組合官
吏ヲ置ル事

普王英國裁廳ノ決定ヲ歎訴シ而ノ普國ノ船
舶不正ノ捕撃ヲ受ケ之ヲ没収セラレタル為メ英
國政府ヨリ賠償ヲ得ル迄テ英人ニ掛フ可キ負
債ノ利金ヲ止メ、シレシアルノ貢税ヲ抵当トシテ取
押ヒタリ英國裁廳ノ処置ハ縱令ニ戰時ノ捕
貨ヲ決スルノ正法ニ依ルトモ亦普國ヨリ英
國政府ニ對シテ賠償ヲ望ムノ得サルモノト考
フ可カラサルナリ

第三百九十五條 一千七百九十四年英米約定レテ
組合官廳ヲ置キ以テ佛國トノ戰爭中英國ノ捕

司法省

船ニテ捕撃スル米國人民ノ請求ヲ公義公法ニ
從テ決定セシメタリ此官廳ノ処置ニ於テ英國政
府ニ對シ戦利控訴廳ニ於テ没収ノ言渡シヲ確定
セシ免件ヲ亂査決定スル此官廳ニ向テ大ニ抗論
セリ此控訴廳ハ固ヨリ公法ニ從テ戦利ノ免件ヲ
至理当然ニ裁判ス可キモノト考定セララル、ヲ以テ
此裁廳ニテ行フ終結ノ裁判言渡シハ十分信ス
可キモノト為スナリ故ニ此官廳ニ於テハ既ニ論
スル所ノ本理ニ基テ右ノ抗論ヲ肯セス没収終
結ノ言渡シ後ノ事件ニ於テハ屢々相当ノ賠

償ヲ為スルニ注意セシナリ

第三百九十六條、又戦時捕撃ヨリ生スル事件ニ付中立國人民ノ請求ヲ調査シ之ヲ決定セシカ為メ各國互ヒニ會議シテ組合ノ官廳ヲ置キタル請例ヲ爰ニ記載ス是ハ捕者ト捕撃セラル、者トノ間ニ就テ戦利裁廳ノ裁判ヲ再興回復スル旨趣ニ非ス公義ノ裁判ヲ經テ至当ノ賠償ヲ得サル時各國ノ間ニ立テ至当ノ賠償ヲ定ムル為メニ設クル所トス凡ソ公法ニ於テ戦利裁廳ヲ論スル時ハ全ク中立國ニ設立スル者ト一樣公法ニ從テ兩國俱ニ

司法省

通用スヘキヤウ制立ス可キモノト雖モ然レトモ實地ニ於テ之ヲ論スル時ハ各戦争國ノ主君ニ因テ必ス最上ノ規則ニ適ス可キヤウ同ハサルヲ得サル戦利法ヲ出スハ人々能ク知ル所トス故ニ此戦利裁廳ニ於テ決裁スル結局ノ裁判ハ理ニ於テ更ニ疑ヲ入ル可カラス十分慥カナル裁決ト考定ス可キモノト雖モ亦其戦利法ヲ出タシテ中立國ノ權利ヲ壓シ及ヒ其規則ニ因テ裁判ヲ言渡スニ外國ノ守ル可キ法律ニ適ハサルヨリ中立國ノ權利ヲ拒妨スルノ事故必ス生ス可キナリ

第三百九十七條 此規則ハ、近時米國及ヒ連國ノ會議ニ於テ確定セリ。是ハ連國ト英國トノ戰爭中、連國ノ捕船、米國ノ船舶船貨ヲ捕拏スルモノヲ決定セシ、為ノニ設ケタリ。其會議ニ於テ、連國宰相ヨリ、凡ソ戰爭國ノ戦利裁廳ニテ、捕拏ノ終、決ヲ遂ケタルハ、再ヒ茲ニ疑問ヲ興ス可カラサルヲ抗論セリ。其時米國政府ニ於テ、捕者本國ノ裁權ハ、其捕拏ノ正理ニアルト非ルトヲ十分ニ審決シ、原主ヨリ捕者ニ所有ノ權ヲ移スノ權アル可ク、又此裁廳ノ終決ニ同テ、既ニ所有

司法省

ノ權利ヲ変シタル時ハ、他ノ裁廳ニ於テ、再ヒ之ヲ査ス可カラズ。又捕者ト捕拏セラル、者トノ爭論ヲ全ク終、決シテ、兩者向來其論ヲ起ス能ハサルノ權アル可ク、其等ノ數條ヲ、米國政府ニ於テ承諾セリ、故ニ合衆國政府ヨリ、連國政府ニ需ヤル請取ハ、連國戦利裁廳ニ於テ、一旦言渡シタル裁判ヲ、再ヒ回復スル為メニ非ス。更ニ連國戦廳ニ於テ、公義ヲ失シ、連國政府、其捕船及ヒ裁廳ノ責任ヲ受ル為メ、米國人民ニ對シテ、相当ノ賠償ヲ為サシメシカ、為メナリ。又連國政府ニ於テ

ハ。勿論其公義ヲ失シタル裁判ニ由。自ラ思量シ
テ。之ヲ償フ方法ヲ定ム可キナリ。即チ其公義ヲ失
シタル裁判ハ。更ニ之ヲ再考評論シ。米暹兩政府
ノ承諾ヲ以テ。公平ノ裁断ヲ開キ。以テ之ヲ論定
ス。此裁断ヲ開クハ。敢テ一旦没収セラレタル貨
物所有ノ權ヲ破ルニ非ス。或ハ捕者ト討主トノ
争論ヲ回復スルニ非ス。全ク一國ノ裁断ヨリ。一
國ノ人民ニ對シテ。公義ヲ失シタル事件ヲ。兩政
府ニ於テ決定シ。而シテ之ノ力ヲ為メ。一國ヨリ一國ノ
人民ニ。賠償ヲ為スヲ論決スル為メナリ。

司法省

此ノ如キ。區別ノ判然タル。即チ。暹國宰相ニ用未
同意ヲ致シ。暹國ニ於テ。米國討主ノ為メニ。当然
ノ賠償ヲ為スノ約定ヲ決定セリ。

才三百九十八條 戦時捕撃スル動産ハ。或ハ之
ヲ堅守スルカ。或ハ裁断ノ審断ニ因ルカ。以テ
全ク捕者ノ有ト成ルハ。既ニ前條論スル所_{如シ}。
然レ_氏。不動産ニ就テハ。其規則甚ク一様ナラス。
不動産ノ原主ハ。所謂回復權ヲ有スル者ニシテ。
捕者不動産ヲ獲テ。所有ノ權ヲ堅固ニセントス
ルニハ。必ス_初約ニ因テ確定セサレハ。之ヲ得ル

鐵道の不能入
ラトルト決定セリ

敵ニ對シテ信ヲ
守ル爲

「能ハス。然レモ、此規則ハ、私産ニ多ク用ヒラル
、一無し。是レ、何レモ、世、各國ノ、通習ニ、於テ、私産ノ、没
収ヲ廢シタル故ナリ。實ニ戰時放估踞スル政府
所有ノ地ヲ讓与スル事件ハ、最モ緊要ノ事件ニ
シテ、必ス明カニ和約シテ、土地讓与ノ事ヲ確定
セサル可カラス。若シ此確定ヲ為サレハ、即チ
未タ原主ノ回復權ヲ存在ス。例ヘハ、此等ノ土地
ヲ買フ者アリトモ、若シ其土地原主ニ復スル
時、買者即チ之ニ據ル能ハサル也。

司法省

第三百九十九條 虎哥氏ノ書ニ云ク、古今各國
ノ証跡ヲ核テ、敵國ニ對シテ、我レ必ス信ヲ尽サ
ハルヲ得サル事ヲ論シタリ。又賓克舍氏、敵ニ對
シテ、欺罔ヲ用ユルヲ許ルスル由、魚氏、敵ト約定ヲ
結ビタルニ、其約定尚ホ存スル間ハ、暫ラク敵人
タルノ性格ヲ失フカ故ニ、我レ其約定ノ信ニ背
クコト嚴禁ス。同氏又云ク、約定ノ信ニ背クコト余
クノ外、敵ニ對シテ欺罔ヲ用ユルヲ許ルレ。而シテ
其約定ノ信ニ背クコト許カハル、取以ノモノハ、即
チ敢テ之ヲ敵ニ對スル不正ノ取爲ト爲シテ、然ルニ
非ス。然レモ、其論定ノ存スル間ハ、我カ信ヲ敵

ニ售ルカ故ニ。元ヨリ暫ラク敵ト倣レテ待ツヒ
非ルヲ以テナリ。実ニ戦時ト虽長。如此ク信ヲ守
ルノ寛法アラサレハ。戦争ノ害測ル可カラス何
レノ日カ知ニ復スルノ期勿ル可キナリ。故ニ文
明各国ノ習慣ニ於テ。戦時ト虽長。送ヒニ盟約レ
テ交通スルノ禮ヲ定ス。彼此往來シテ和ヲ議ス
ノ便宜ヲ得可キナリ。

司法省

第四百條 爰ニ戦争國互ヒニ。戦權ヲ寛ニスルノ方法アリ。即チ盟約シテ兵ヲ停ムルカ如キ是ナリ。而シテ此兵ヲ停ムルノ法。ニアリ。一曰ク。全約ヲ以テスルモノ。二曰ク。特權^約ヲ以テスルモノナリ。其全約ヲ以テスルモノトハ。何レノ處ヲ論セス。渾テ敵ト兵ヲ交ユルヲ停メ。或ハ多日ヲ定メ。或ハ限期無キモノニシテ。殆ント一時和ヲ講スルニ異ナラサルモノヲ云フ。唯戦フ所ノ故ヲ決セサルノミ。如此キハ。曾テ^夫教ヲ奉スルノ國。土耳其ト文戦ノ時。兵ヲ停メタル例ニシテ。是ニ是レハ

司法省

千六百九年。和蘭西班牙國ニ叛キタル時。決シタル休戦ノ例トシ。又特權ヲ以テスルモノトハ。即チ某ノ地ヲ限定シテ。兵ヲ停メ。兩國或ハ城兵ト攻兵ト相約シテ。暫時攻撃ナサハルモノヲ云フ。第四百一條 全停ヲ決スルノ權ハ。海陸將帥ノ能ク擅マニ決スル所ニ非ス。如此キ停軍ヲ為スハ。國君預メ其將帥ニ。其權ヲ授ケタルカ。或ハ後チ其事ヲ聽ルスカニ非レハ。必ス之ヲ正約ト為ス可カラス。

又暫時兵ヲ停ムルカ如キハ。兩國ノ海陸將帥。必

ス為メニ特權ヲ授ケラル、者ニ非スト。虽氏之
ヲ決スルヲ得可シ。蓋シ兵ヲ用ユルノ權アル
時ハ、其職掌ヲ尽スニ當リ。臨機必ス亦如此キ權
アラサルヲ得サルナリ。

第四百二條 兵ヲ停ムルノ約ヲ決定スル時ハ、
之ヲ決議スル將帥、及ヒ其麾下ノ人衆、必ス其期
日ヨリ、謹ニテ其約ヲ守ラサル可カラス。然レ氏、
戰爭國ヨリ、他ノ臣民ニ對シテ、之ヲ守ルノ公布
ヲ必ス為サハル可カラス。蓋シ未タ其公布アラ
サル前、約ニ背テ敵對ノ所為ヲ犯ス時ハ、其者ノ

司法省

獨リ責ヲ受ルニ非ス。然レ氏、既ニ公布アルヲ知
テ、故ヲニ之ヲ知ラサルトシテ、約ニ違フ時ハ、其
者必ス責ヲ免ルカ。能ハサル日以テナリ。夫レ一
國ノ主權ヲ以テ約ヲ結フ時ハ、明許黙許ヲ問ハ
ス。必ス之ヲ守ラサルヲ得ス。故ニ休戦ノ時、海上
捕撃ノ萬貨ハ、捕者ノ政府ヨリ、必ス之ヲ給還セ
サルヲ得ス。故ニ如此キ事件ヨリ生スル紛議無
ラシメンカ為メ、休戦ノ盟約ハ、和約ト同シク、預
メ兵ヲ停ムルノ日期、土地ノ遠近ヲ思量シテ、以
テ之ヲ定ムルナリ。

休戦ノ約ヲ
説明スルノ
論

第四百三條 盟約ヲ解説スル通則ノ外、爰ニ兵
ヲ停ムルノ約ヲ明解スル。特別ノ數則アリ。
一曰。奈得耳氏ノ論スル所ニシテ、休戦ノ間、各具
自國ニ在リ。或ハ約上ニ定ムル疆内ニ在テ、事ヲ
行フニ、更ニ平時ト異ナルトナク、兵ヲ募リ、兵ヲ
調シ、糧食彈藥ヲ収集シ、友國ノ援兵ヲ求需シ、或
ハ當時攻圍ヲ受サル城池ヲ修繕スル等。總テ可
ナラサルナシ。

二曰。既ニ交戦ノ為メ行フヲ得サル所ノ事ハ、休
戦ニ托シテ私ニ之ヲ作スヲ得ス。否ラサレハ則

司法省

チ欺テ休戦ヲ為スニ涉リ。約ニ背キ信ニ違フノ
所為ニシテ、例ヘハ城兵ト攻兵ト、休戦ノ約ヲ為
ス時、各攻防共、互ヒニ浚前ノ城池ヲ修繕スルト
能ハス。或ハ攻防ノ為メ、新タニ城砦ヲ建築スル
ト能ハス。或ハ攻兵ト兵ヲ停ムルノ約ヲ為スニ
非レハ、敵十分遮絶スルヲ得キ道路ヲ經過シ、
事ヲ休戦ニ托シテ、私カニ糧食援兵ヲ城中ニ送
ルヲ得サルナリ。

三日。是レ奈得耳氏ノ論スル所ニシテ、更ニ別則
ト為ス程ノモノニ非ス。全ク前則ヨリ生スル所

休戦ノ期満
キテ復シ戦ヲ
始ムルノ論

ノ変休ニシテ。即チ交戦ヲ終ルニ非スシテ。唯兵
ヲ停^{ムル}メ。凡^ル事^ハ前^ノ状ノ如ク。一モ之ヲ動カスニ非ス。
休戦ノ時間。殊ニ土地ヲ領スルヲ争フナリ。

以上ノ三則ハ。休戦ノ約ヲ取結フ者ニ因テ。互ヒ
ニ明議シ。以テ相増減スルコトヲ得可シ。

第四百四條 凡ク休戦ノ期満キテ後チ復シ兵
ヲ交ユルハ自然ノ勢ニシテ改テ戦争ノ公布ヲ

要スルニ非ス然レモ若シ約定ニ於テ休戦ノ時
期ヲ定メス或ハ其時期長久ニシテ和約ト一様

ナル時ハ即チ復シ戦ヲ始ムルニ臨ンテ必ス之
司法省

ヲ敵ニ前報ス是レ仁義公明ニ悖ラサルノ所為
トス如此キハ古時羅馬國^{ローマ}戰フ時休戦ノ

時間長久ナルニ費國人其期ノ未タ満ルヲ俟タ
スシテ再ヒ兵ヲ興シメリ然レモ羅馬人仍チ禮

ヲ以テ使テ遣ハシ其賠償ヲ討メ而メ後チ復シ
戦ノ始メタリ是レ羅馬兵学校ニ於テ教ユル所

ノ義務トス

投降ノ約ヲ定
ムル事

第四百五條 兵軍城砦及ヒ地方等敵ニ降伏
スルノ約ハ海陸將帥委任ノ全權ニシテ例ヘハ
城中ノ主宰ト攻兵ノ將帥ト投降ノ約ヲ定ム
ルニ事已ムヲ得サルニ出レハ必ス迭ヒ之ヲ
盟約スルヲ得兩國ノ主君後チ之ヲ確定ス
ルヲ要セサルナリ如北キハ城内居民ノ宗教ト
權利安全^{スル}ヲ為ノ城兵期日ヲ定メ勝者ニ對シ
テ再ヒ兵仗ヲ執ル可カラサルノ約ヲ結グハ
勢ニ因テ可ナラサルナレ且ツ其他事已ムヲ
得サルニ出ル不時ノ事ヲ決スルニ至テハ將

司法省

帥ノ毎ニ掌ル所トス然レモ若シ城ヲ守ルノ
將官其地ヲ永久敵ニ讓与スルノ約ヲ結ビ或
ハ其權内ニ非ル約ヲ結グ如キハ全ク之ヲ越^ス
權^シノ所為トス

第四百六條 古時羅馬國ノ將官「コーシーン
ホークス^他」ニ於テ「サムニテス」人ト決レタル條款
ハ即チ越權有名ノ約定ニシテ當時羅馬國ノ
元老議シテ其約定ヲ肯シセス虎哥及ヒ飛得
耳氏大ニ此所為ヲ賞讚シ同氏之ヲ論シテ云
ク固ヨリ「サムニテス」人ニ於テハ羅馬將官ノ

此條詳解難シ
因テ暫ク原文
ノ條ヲ直訳ス教
師ノ辨解ヲ待テ
再改ス可シ

如此キ盟約ヲ為スノ權無キヲ必ス了議シア
ル可キハ言フ俟タサル所トス故ニ此約定
ニ因リ決シテ戦前ニ復セシム可カラサルナ
リ當時羅馬ニ於テハ將官ノ所為不當ニ出ル
ヲ以テ立口ニ盟約ノ本人ヲ「カムニテス」ニ遣
ハシ以テ其原約ヲ廢シ終ニ再ニ戰テ其強敵
ヲ服後セシメタリ

第四百七條 歐洲七年間ノ戦争中ハノーフ
ルニ於ル英軍ノ指揮官「キユムベルランド」ノ
侯族ト仏軍ノ指揮官「マシーヤルタセリ」

司法省

氏ト日耳曼ノ北部休戦ノ為メ「コロステルセ
ーフェン」ニ於テ議決スル盟約ハ近世ノ史歴ニ
記載スル更ニ有名ナル越權ノ約定トス抑々
當時英仏兩政府ノ議論ヲ案スルニ果シテ双
方ノ間公法ノ大理ニ適セサル所アル可カラ
ズ然レモ當時双方ノ言語ヲ以テ明約セサル
ト至ル投降ニ付テ如此キ盟約ハ軍將ノ權外
ニ出ル所ニシテ必ス後々ノ確定ヲ要ス可キ
ハ暗ニ双方承諾ヲ事トセリ「一千八百零九年
エキット國ヲ讓与スル時「エリス」ニ於テ調

印セシ盟約モ亦同一ノ取爲トス能令ヒ「コロ
ステル」セーフエシノ盟約ニ於テ英仏西政府ノ
処置エルアリス「コロ」処置ニ於テ全ク相及スル
ト虽氏英國政府ニ於テ最初英將「コロ」ニ
モツス氏ノ權十分ナラサル庶ナ以テ後約ヲ行
フヲ准ルスヲ肯ンセス而シテ「コロ」ヘリテポリスノ
戦争後更ニ模様変遷セテ既ニ「コロ」氏ノ処置ニ
適ハサルトシテ仏軍ノ約定ヲ行フヲ許サズ
此時英國政府ノ處置殊ニ信義ヲ示シタリ是
レ英國議院ニ於テ大ニ盟約ノ事件ニ有宰相

司法省

殊ニ之ヲ論論セシテ以テナリ然レ氏仏將「ク
レベル」氏ニ於テ「コロ」一モ破約ノ證ヲ顯ハサス
「コロ」氏ノ處置「コロ」ステルセーフエシニ於テ「コロ」
ムベルラント「コロ」候族ノ処置ト比較スル「コロ」
レ「コロ」比較スル能ハサル可シ「コロ」候族ノ処置「コロ」時
ノ模様ニ從テ事ヲ決レ調印スルヲ利アリト
考フル時「コロ」之ヲ行ヒ而シテ又時ノ模様変シテ
己ム之ヲ利アラサルト考フ時「コロ」之ヲ行フテ
肯ンセサルナリ「コロ」其盟約ニ於テ「コロ」時ヲ以テ際
要トス実ニ時「コロ」爲定ノ本体ト云フ可キナリ

通行免状ヲ
與フル事

敵國ト通商
スル免状ヲ與
フル事

若レ夫レ事直チニ行フ能ハサル時ハ之ヲ為
レテ其功ナキニ至ル或ハ新タニ會議シテ其
受渡セサルヲ得サルナリ

第四百八條 通行免状ビツト護身免状セリフコシ及ヒ通商免
状等ハ戦時其人其貨ヲ保護スル為メニ與フ
ル證書ニシテ之ヲ出スノ權ハ既ニ前條論ス
ル所トス此權威或ハ海陸將帥ニ在リ或ハ文
官明ニ其權ヲ有レ或ハ暗ニ其權ヲ有レテ之
ヲ出スナリ如ク免状ハ必ス宏寬誠信ヲ
以テ解明ス可キモノトス

司法省

第四百九條 戦時敵國ト通商ヲ准ルル為メ
自國ノ民或ハ敵國ノ民ニ與フル免状ハ即チ
其解明スル文意ニ從テ交戦ニ係ラス貿易ス
ルヲ准ルルモノトス故ニ敵國ニ於テハ、免
状アルニ因テ其人ヲ捕レ其貨ヲ没収スルノ
原由ト考フルト虽モ之ヲ出ス國ノ海軍裁廳
ニ於テハ、其免状アルニ因テ其人其貨ヲ赦ル
ノ原由ト考フルナリ、此免状ヲ出スハ、公務及
ヒ通商ノ損益ヲ思考シテ後チ決定スル所ニ
シテ其權全ク一國ノ主權ニ出ル所トス、免状

ハ、國權ヲ以テ定ケルカ故ニ、必ス之ヲ遵守ス
可久之ヲ准ルスノ意ニ適スルヨリ、決シテ權
外ノ事ヲ行フ可カラサルナリ、又免状ハ、寬ニ
從テ之ヲ鮮明シ、必ス無用ノ綿密ニ涉ル可カ
ラス、或ハ權差ニ曰テ其功用ヲ害フ可カラス、
免状ニ准ルス貨物量目ノ過多ナルハ、敢テ事
ニ害ナシト虽モ、其品質ノ變スルハ、大ニ事ニ
害アリ、即チ一物ヲ論入スルノ免状ヲ以テ他
品ヲ輸入スル時ハ、其弊害測ル可カラサルナ
リ、免状ニハ、時間、姓名、地方ヲ詳記スルヲ以テ、

司法省

最モ緊要ノ事トス、允敵國ト通商スル、原ト政
府ノ許可アラサレハ、我カ民敵國ト通商スル
能ハス、亦敵人我カ民ト通商スル能ハス、故ニ
政府如此通商ヲ准ルレテ、更ニ戰權外ニ置ク
ニハ、必ス某ノ人、某ノ時、某地ヲ定メテ以テ聽ル
スヲ至要トス、如此キハ、即チ免状ノ鮮明ニ就
テ、斯果德氏ノ論スル所トス、然レモ虎哥氏云
ク、護身免状、及ヒ通船免状共必ス寬ニ鮮明ス
ルヲ通則トス、近時ノ戰爭ニ於テ、英國戰利裁
聽通船免状ヲ鮮クニ、極メテ寬法ヲ用ヒタリ、

通商免狀
出ス、權

第四百十條 通商免狀ヲ出ス人ノ權ニ因テ、英
 國ノ捕拏ヲ免ル、ヲ得ヒシムルハ、其權何ヲ以
 テ是レリトス可キヤ、英國戰利裁廳ニ於テ茲ニ
 論アリ、即チ此事件ニ就テハ、米國船舶セフー
 号ノ事件ヲ以テ、最モ著ルシキモノトス、此船舶
 ハ穀物麩粉ヲ積載シテ、米國ヨリ英兵ノ佔據ス
 ル、^レニシユラノ港内ニハラントスル時、英國兵
 船ノ為メニ捕獲セラレタリ、然レ^レ此船元トホ
 ストシ^レ府在留ノ英國領事ヨリ出ス所ノ免狀ア
 リ、又米國ニ在ル、英國水師提督ヨリ給フ所ノ書

司法省

翰アルヲ以テ、其保護ヲ需メタル事件トス、此裁
 判ヲ言渡スニ自キ、斯果德氏論シテ云ク、凡ソ免
 狀ニ因テ、保護ヲ得ントスルニハ、之ヲ出ス者、即
 チ之ヲ出シ、当然ノ權無ル可カラズ、然レ^レ此免
 狀^ニ至^ルテハ、元來其權アラサル者ヨリ出ル所ノ
 モノトス、故ニ必ス其貨ヲ護ルニ^テ是^ラサルナリ、
 夫レ敵貨ヲ戰權外ニ置テ、敢テ伺ハサル所以ノ
 モノハ、唯君主^上ニ^能シ^クヲ主トスルニ^アリ、臣下ニ托シ
 テ^シテ^ラ為^サシムル如キハ、必ス之カ為メ特權ヲ
 得タル者カ、或ハ職掌ニ於テ、暗ニ之ヲ出スノ權

アル者カニ出ルニ非レハ、之ヲ正證ト做ス可カ
ラス、何レノ國ニ駐劄スルヲ論ヒス、領事ノ如キ
ハ、此權アル可カラス、殊トニ敵國ニ駐ル領事ニ
於テラマ、果シテ其權アル可カラサルナリ、水師
提督ノ如キモ亦然リ、抑、提督ノ職タルマ、實ニ
麾下ノ船艦ヲ指揮シ、敵對ノ所為ヲ犯スヲ得サ
ラシハルニアリ、免狀ヲ出スカ如キハ、更ニ權外
ノ餘事ト云フ可キナリ、故ニ如此キ人、一時ノ權
ヲ以テ出ス所ノ免狀ハ固ヨリ貨物ヲ保護スル
ニ足ル可カラス、又特別ノ場合ニ於テ、其權アリ

司法省

ト考定ス可カラス、又討主ノ信スル免狀、全ク領
事提督等ノ專斷ニ出ル時ハ、元ヨリ盡ク不正ノ
モノトス、然レモ、亦爰ニ論アリ、英國政府ニ於テ
臣下屢々權外ノ事ヲ為ス時ハ、更ニ之ヲ確定シ
テ、正信ノ所為ト變スルナリ、即チ交際上ニ於
テ、一旦為ス所ノ約定ヲ更ニ後確定シテ正信ノ
モノト定ムルカ如シ、是レ一千八百十三年十月
二十六日、議院ノ規則ニ因テ、英國政府、屬官ノ所
為ヲ確定シテ、貨物ヲ給還セシメアリ、又コレヲ
一、船ノ事件ニ於テ、控訴長ノ前ニテ、更ニ裁判

ヲ確定セシムアリ、然レモ「セ」レ「ス」ル「事」
件ニ於テハ、水師提督「ソ」ル「ル」及「ロ」米國在苗、
西班牙國公使ノ調印セシ證書ヲ以テ「ス」パン「ス」ウエ
スト、インデ「シ」ニ航海セシニ、控訴長之ヲ裁決シ
テ云ク、此證書ハ議院ノ規則ニ於テ確定ス可キ
モノニ非ス、故ニ貨物ヲ保護スル能ハサルナリ
又米國在苗ノ英國公使免狀ヲ出シテ米船糧食
ヲ積載シテ之ヲ「バル」ソ「ロ」ミ「ー」島ニ送ルヲ許ル
シタルニ、議院ノ規則ニ於テ之ヲ確定セス、渾テ
公使ヨリ出シタル免狀ヲ確定セシ議院ノ規則
司法省

中ニ在ラサル事件ニ於テハ悉ク控訴長之ヲ没
収セリ、

捕貨ヲ贖フ事

第四百十一條 海上ニ於テ、敵貨ヲ捕拏スルニ、
敵金ヲ以テ、之ヲ贖回スルノ約定ヲ為ス時ハ、通
例捕者ヨリ護身免狀ヲ與ヘテ、期日ヲ定ム、其船
其貨ノ預メ定ムル港内ニ往クヲ准ルスナリ、捕
者ノ國禁ニ非レハ、其免狀中ニ定ムル時間及ヒ
地方内ハ、必ス捕者ノ本國或ハ同盟國ノ捕船ヨ
リ、十分捕拏阻碍セラレ、ト無シ、此免狀ヲ出ス
ハ、戰爭國ヨリ捕船ニ委任スル所ニシテ、又自ラ

捕拏セラレ、貨物ヲ贖回スルノ權ヲ有シ便宜ニ後テ之ヲ行フナリ、若シ贖フ所ノ船舶其定ムル地ニ到ラサル前海上海波ノ為メニ沈没スルト雖モ其定ムル所ノ贖金ヲ拂フノ義務尚ホ未タ消スルニ非ス、蓋シ捕者原ト免状ヲ與ヘテ其本國或ハ同盟國ノ捕船ニ因テ、再ニ捕拏セラレルヲ保護スレト雖モ海上ノ危難ヲ保全スルモノニ非レナリ、又若シ贖フ所ノ船舶海上風濤ノ危難ニ因テ亡失スル時ハ贖金ヲ納ルヲ免ルス明約アルト雖モ必ス大洋中ノ沈没ヲ指シテ云

司法省

ス岸上撞壞ノ如キニ及ハサルナリ、蓋シ是レ船舶長故テニ其船舶ヲ破壊シ、私カニ貴重ノ貨物ヲ移シ、贖金ヲ免ル、ヲ謀ル恐アルヲ以テナリ、又若シ贖フ所ノ船舶収贖状中ニ記スル時期ヲ過キ或ハ更ニ別路ヲ航シテ、復ニ捕者本國ノ為メニ捕拏セラレ、時ハ船舶長贖金ヲ拂フノ義務ヲ免レ、第二ノ捕者之ヲ戦利トス、故ニ之ヲ賣却シテ、贖金ヲ前捕者ニ渡シ、其殘金ヲ第二捕者ノ有ト為スナリ、又若シ敵一旦捕拏セラレタル船舶ヲ贖トタル後テ、其捕者収贖状ト共ニ、敵ノ為メニ

捕拏セラレ、時ハ贖金ヲ拂フ可キ敵國ノ負債主、其義務ヲ免レ、ナリ、又捕拏セラレ、者ヨリ、贖金ノ約定ヲ慥カニ遂ケシムルカ為メ、人質ヲ取り置キ、而シテ其人死スル時ハ尚ホ其約ヲ廢スルニ非ルナリ、蓋シ捕拏者其人質ヲ取ルハ、唯其約ヲ堅固ニセンカ為メニ過キサルヲ以テ、縱令ヒ其人死亡スルトモ、其約ノ成廢ニ係ルニアラス、預メ特別ノ明約アルニ非レハ、必ズ元約ヲ遂ケシムルナリ、

司、フーゾノ事件ニ付、斯果德氏論シテ云ク凡ソ
司法省

贖金ノ約定ニ就テハ「ゲラレル」第三世ノ定律ニ因テ、英國人民ヨリ敵國ヲ贖回スルヲ禁ビ、前トモ、敵國ノ戰利裁奪ニ來テ、贖金ノ為メ之ヲ訟フルヲ能ハス、然レモ贖金ノ為メ、敵國ニ人質トナル者ヨリ、其身ノ自由ヲ得シカ為メ、其本國ノ裁廳ニ訟テ、贖金ヲ拂ハシムルヲ得タリ、然レモ、如此キ約定ハ、戰爭國互ヒニ取結ブ他ノ約定ノ如ク、收贖状アルニ就テハ、己ニ敵人ト見レニ非ス、故ニ捕拏者直チニ收贖状ヲ以テ訴ルトシ、妨クルヲナク、是レ歐洲各國海軍裁廳ノ

通習ト見ヘタリ

司法省

萬國公法

第四篇

第三章

中立國戰權ノ論

ニエトラリテ
局外中立ノ
辭義

第四百十二條 希臘刺的（羅）ニ於テハ近世英國ニ
 於テ用ユル局外中立（ニエトラリテ）ノ辭義ニ適中スル語ナシ
 蓋シ近世著者ノ用ユル局外中立ノ語ハ頭名著
 者ノ用ヒタルモノニ非ス以中立（ニエトラリテ）ノ語ヲ用ユル
 ハ大ニ先哲ノ用ヒタル辭義ヲ害フニ似タリ抑
 羅馬學師ノ用ヒタル「（ラ）ミシ」（ラ）ジ」等ノ語ハ現

司法省

今我カ會得スル局外中立（ニエトラリテ）ノ辭義ニ適中スルモ
 ノニ非ス原來我カ局外中立ノ辭義ニ適中スル
 古語アラサル所以ノモノハ古時文明國ノ公法
 ニ從ヒハ兩國交戦ノ際ニ當テ其隣國タルモノ
 ハ必ス平穩ヲ得ルノ理ナク其同盟トナラサル
 者ハ皆之ヲ敵視スニ因ル所以ニシテ實ニ古時ニ
 在テハ近世論スル中立ノ權ヲ全フスル能ハス
 是レ古ハ局外中立ノ適語無キ所以ナリ故ニ近
 世刺的語ヲ以テ公法ヲ著ハス者交戦ノ例寬ニ
 シテ古時ノ習慣ト相反シタルカ故ニ其文字ヲ

改メサレハ能ハス尚ホ中立ノ辞義ニ適中スル
語ヲ見出スヲ要スルニ至リタリ虎哥氏ハ「メジ
リ即チ中間^{ミツグレ}ノ人ト云ヘル語ヲ用ヒ又賓舍克氏
ハ「ノンホステス」即チ敵ニ非ル人ト云ヘル語ヲ
適用セリ

第四百十三條 公法ニ於テ爰ニ局外中立ノ權
ヲ守ルニアリ一曰ク全即チ十分^{ベルヘットニユートラリチ}ノ局外中立二
曰ク半全即チ不十分^{イムベルヘットニユートラリチ}ノ局外中立トス

第四百十四條 其全ナルモノ即チ十分ノ局外
中立トハ凡ソ自主ノ國他國ノ戰爭ニ遇フ時盟

司法省

約ヲ為スニ係ラス坐視シテ局外中立ノ權ヲ全
フスルモノヲ云フ支レ自主ノ國他國ノ交戦ニ
遇フト虽モ其事ニ與カラス獨リ平穩ヲ守ル固
ヨリ自主タルノ權利ニシテ一モ疑フ可カラサ
ルナリ然レモ若シ中立國戰爭國ト友誼通商ヲ
為ス時ハ其戰爭ニ管セサルヲ得サルノ情アリ
故ニ如此キ中立國ノ權ハ必ス其兩國ニ對シテ
偏視ス可カラス兩國ニ友誼アレハ此ニ利シ彼
ニ害スルノ所為アル可カラス賓氏云ク中立國
ノ義務ハ毫モ戰事ニ與カラス兩國ニ對シテ公

瑞西國ノ局外
中立

平均正ヲ旨トシ又戦争ノ正否ヲ論シ西國ノ間
ニ立テ之ヲ判スルノ權ナシ必ス此ヲ助ケ彼ヲ
惡ムノ所為アル可カラサルナリ實ニ是レ局外
ノ全權ヲ有シテ其分ヲ守ル果シテ此外ニ出テ
サル所トス賓氏又云ク是レ戦争國ト同盟ヲ為
サル自主國ノ義務ニシテ即チ其同盟國ト區
別シテ此國ヲ稱シテ友國ト云フ

第四百十五條 其半全ナルモノ即チ不十分ノ
局外中立トハ既ニ戦争國ト盟約アリテ之ヲ守
リ局外ノ半權ヲ有スルモノヲ云フ歐洲ノ公法

司法省

ニ於テ此中立ノ權ヲ守リタル諸列ヲ尤ニ掲載
ス

第四百十六條 瑞西聯邦ノ獨立ハ實ニ久シク
保持スルモノニシテ元來瑞西國ハ日耳曼帝國
ノ一部タリシカ一千六百四十八年維士舍里ノ
和議ニ因テ全ク獨立ス實ニ瑞西聯邦ハ政ヲ為
ス甚タ智既ニ歐洲三十年間ノ戦争中獨立ヲ固
守シ尔後佛國大乱ノ戦争ニ至リテ稍々其權利
ヲ破ラルト雖隣國皆其中立ヲ許ルシタリ
然レモ此中立ノ權其隣國ト盟約ヲ為スニ因リ

テ少シク変スル所アリ或ハ隣国ト同盟シ或ハ
隣国ニ兵ヲ借スノ盟約ヲ為シタリ瑞西中立ノ
処置ニ就テハ奥佛久時ノ大戦中ト虽共ニ之
ヲ許ルス所ニシテ是レ畢竟其地勢ニ管係ス瑞
西本ト奥佛伊太利ノ中間ニ位シテ山岳高嶺國
内ニ縱横シ「ダニュー」ベ「ロ」ン「ロ」ン及「ホー」レ
ノ四大河皆水源ヲ此ニ谷シテ他國ニ流通ス若
シ奥軍ノ為メニ山路ヲ茲ニ開ク時ハ直チニ「タ
ムー」レ河ノ山間ヨリ「ホー」レ河ノ山間ニ進軍スル
「ヲ」得テ佛國ノ疆界「バー」ス「ル」ヨリ「ナイ」ルニ至ル

司法省

近テ奥軍一挙シテ兵威ヲ逞スル「ヲ」得可シ故
ニ佛國ニ於テハ若干里ノ疆界為メニ盡ク防守
為サ、ルヲ得ス又若シ山路ヲ鎖ス時ハ佛國惣
軍ヲ「ロ」レ「レ」河ニ集括シテ大ニ其便ヲ得可シ是
レ史歷ニ傳ル如ク奥軍「ア」ル「レ」河ニ因テ佛國ノ
南部ヲ蔽ハントスルト虽モ地勢嶮難遠隔ノ為
メ遂ニ此戦畧ヲ果ス能ハサルヲ以テ知ル可キ
ナリ

故ニ佛國ニ於テハ瑞西永久ノ中立ニ因テ得ル
所ノ利益固ヨリ判然タリ然レモ亦奥國ニ取テ

モ瑞西中立ノ為ノ安全ヲ計ルニ益ナシト云フ
可カラス支レ一度ニ瑞西ヲ以テ隣國ノ戦地ト
為ス時ハ佛軍必ス奥軍ノ其地ニ拠ルヲ防カサ
ル可カラス 攻防共奥軍ノ一隊「スワベール」ニ踞リ
一隊伊太利ニ進ムト虫臣アルペ亜尔伯ノ大嶺其間ニ
蟠屈シテ兩軍互ニ通スルヲ能ハス然レハ佛軍
ニ取テハ一軍官斯丹湖ヨリ進ミ一軍亞尔伯ノ
峻嶺ヨリ入ル時ハ即チ「スワベール」伊太利ノ近傍
ニ於テ奥軍ノ側面ヲ襲撃スルヲ得可キナリ
第四百十七條 佛國ノ大乱中瑞西中立ノ権屢

司法省

々西戦争國ノ為ニ破ラレ一度ヒ平安ノ山間
モ忽チ變シテ奥佛魯軍ノ戦地トナリ同盟列國
ノ兵驅逐シテ佛軍為メニ退キ干時佛軍全ク國
乱ノ為メニ退クト虫臣一千八百三年佛國共和
黨ノ議長第一世那破翁遂ニ和シテ之ヲ鎮静ス
此時又瑞西佛國ト同盟ノ約ヲ決ス即チ其盟約
ノ條款ニ云ク瑞西ノ中立ハ佛國之ヲ許ルシ瑞
西ニ於テハ佛軍ノ其疆内ヲ通行スルヲ許ルサ
ス而メ若シ通行スル時ハ兵力ヲ以テ之ヲ抗拒
ス可キヲ載セタリ又瑞西ニ於テ此盟約ノ日

同時ニ調印シテ一万六千人ノ外瑞兵八千人ヲ
佛國ノ軍用ニ供ス可キヲ准ルシ又同時奉ト
瑞西ノ佛國ト同盟スルハ唯自國防禦ノ為ナル
カ故其中立ノ推ヲ害フ可カラサルヲ約シタ
リ
第四百十八條 一千八百十三年同盟列國ノ兵
佛國ニ侵入セシ時墺國ノ兵公族「スワルツエンヘル」
氏將トシテ瑞西ヲ經過シ瑞軍ノ抗拒ヲ受ケス
遂ニ三ツヨリローン河ヲ涉リタリ然レモ猶ホ
瑞西中立ノ權一千八百十五年三月二十日維也

司法省

納ノ公會ニ因テ許可ヲ受ケタリ干時那破翁ト
ルバ島ヨリ歸ルニ當リテ同盟列國ヨリ瑞西ニ
對シテ佛國ニ抗敵スル盟約ニ同意アル可キヲ
ヲ勸ム一千八百十五年五月六日同盟列國ノ主
宰ヨリ瑞西ノ公會ニ書ヲ送テ云ク綴令ヒ同盟
列國ニ於テハ再ヒ佛國ノ興起セントシテ患ヒ之
カ為メ之ヲ拒防セント欲ス瑞西ニ於テモ此盟
約ニ一致スルハ敢テ疑ヲ容レサル処トス然レ
モ瑞西ニ對シテ其國力ニ及ハス其人情ニ適セ
ザル軍兵ヲ出サシムルトシテ欲セス又瑞西ノ軍

制ハ元ト大望ヲ謀ルニ非ス獨リ國疆ヲ守リ國
安ヲ謀ルニ過キス故ニ瑞西堅ク局外ヲ守ルノ
大意モ変セザレトハ列國ノ能ク知ル所トス因
テ同盟各國ヨリ瑞西ニ結約ヲ乞ヒ以テ後時ニ
拘ラス臨機非常ノ時ニ當テハ從テカヲ用ユル
ノ所為アラントシテ欲スルハ必ス瑞西局外ノ大
意ヲ破ルニ非ス有益永久ノ方法ニ適ス可キ時
期ヲ過クサル為メナリ

第四百十九條 一千八百十五年五月十二日瑞
西ノ公會此書ニ答テ云ク瑞西ノ同盟列國ニ對

司法省

シテ守ル所ノ關係ハ必ス瑞西其意ヲ變ス可カ
ラス猶ホ瑞西固有ノ性質ニ守リテ確然動ク可
カラス二十二州聯結シテ自主獨立ヲ維持シ聯
結ノ大義ヲ以テ國カヲ輝カサントシテ勉ムルナ
リ夫レ此大義ヲ遂ントスルニハ偏ニ瑞西ノ人
情地勢政体ニ關係スル所ニシテ爾來隣國トノ
交際ハ固リ局外ヲ守ルニ非レハ得可カラス實
ニ大亂中瑞西強威ヲ張り軍威ヲ輝カサントス
ルハ獨リ國疆ヲ禦キ中立ヲ守ルニアリ即チ是
レ瑞西同盟ノ列國ト離ル可カラス五十有餘里

ノ國疆ヲ守ルヲ以テ最モ緊要トスル所ナリ既
ニ之ヲ為メ兵軍三千有餘ヲ徵募ス故ニ瑞西此
兵ヲ以テ國疆ヲ堅守スルヲ決スルニ至テハ列
國ニ對シ別ニ援ヲ乞ハサレハ列國亦瑞西ノ中
立ヲ許ルス可キノ義務アラントヲ欲ス瑞西ノ
人民ヲ鎮靜シ瑞兵ヲシテ列國ヲ援ケシムルハ
實ニ列國其中立ヲ許ルスニ因ル所トス是レ瑞
西兵事ノ大任ト云フ可キナリ

一千八百十五年五月二十日瑞西約定シテ奧英
普魯ト同盟シ其餘欵ニ云ク若シ列國ノ軍時機

司法省

止ムヲ得サルニ當テ瑞西ノ疆内ヲ經過スル時
ハ瑞西公會ノ權ヲ以テ之ヲ許ルス可キヲ決
シタリ故ニ列國ノ左軍ハースル及ヒローンヘルテン
ノ間ニテ「ローン」河ヲ涉リ瑞西ヲ經テ佛國ニ進
入セシ事アリ

第四百二十條 一千八百十五年十一月二十日
佛國巴里ニ於テ復ヒ和議ヲ整ヘ英奧魯普佛ノ
五國盟約シテ爾來瑞西不朽ノ中立ヲ許ルニ維
也納ノ公會並ニ巴里ニ於テ定ムル瑞西ノ新疆
内ヲ犯ス可カラサルナリ誓ヒタリ瑞西中立ニ

以耳時ノ局外

テ隣国ニ關係セス其中立ヲ許ルスハ即チ歐洲
全国ノ利益ニシテ瑞西ノ国推ニ對シテ利害ノ
有無ハ其疆内通行ノ模様ヲ以テ判然タリ嚮キ
ニ五月二十日ノ公會ニ因テ此通行ヲ許ルシタ
ルハ全ク三月二十五日ノ約定ニ於テ瑞西同盟
列国ノ大義ニ一致シタル所ニ出ル所トス
第四百二十一條 以耳時亦地勢瑞西ニ類似ス
一方佛国ニ思シ一方和蘭日耳曼ニ接隣シ而メ
日佛蘭三国ノ間ニ思在ス故ニ瑞西ノ境佛間ニ
在テ中立スル如ク以耳時亦日佛蘭ノ間ニ在テ

司法省

局外ヲ守ラントスルハ自然地位ノ然テシムル
所トス以耳時ハ普軍ノ佛国北疆ニ侵入スルヲ
防キ又以耳曼ノ佛国ニ進軍スルヲ衛護ス然レ
モ比伍邦或ハ日耳曼ニ屬シ或ハ西班牙國ニ屬セ
シ時屢々歐洲各國ノ戦地トナリ一千七百十三
年同十五年「エトレク」及「アントウエルプ」ニ於テ
奥英和蘭盟約シテ和蘭ノ獨立ヲ許レシ奥伍邦
ノ南疆ハ永ク和蘭ノ兵ヲ以テ之ヲ守ルヲ決
定ス其後一千八百十五年維納也ノ公會ニ因テ
伍邦全ク一國トナリ佛国ニ對シテ日耳曼ノ境

畏ヲ定メタリ然レモ此国再々別ルハニ及シテ
遂ニ五國約シテ以耳時永久ノ中立ヲ許可ス是
以耳時和蘭ト分立シテ其獨立ヲ決定スル所
トス

第四百二十二條 一千八百十五年維也納ノ公
會ニ因テ定ムル第六條ニ云ク奧普魯ノ三国共
ニ保護シテ革喇高^{カラウ}府及ヒ其屬地永久ノ局外中
立ヲ許ルスコトヲ公布セリ革喇高ハ元ト三国ノ
間ニ畏在シ而ノ三国同盟シテ此中立ヲ許ルス
所以ハ革喇高ニ於テ三国ノ叛軍亡匿ノ巢窟ト

司法省

ナルヲ許ルサハル為ナリ故ニ革喇高此義務ヲ
欠ク時ハ三国交々兵力ヲ以テ此国ヲ押領シ強
テ其國事ニ係カルコトヲ許ルシ或ハ公法ニ從テ
其國事ニ與カルヲ許ルスコトアリ是レ三国ノ交
際上ニ於テ大ニ義論ヲ生スル所ト云モ今之ヲ
爰ニ論スルヲ要セサルナリ

第四百二十三條 瑞西日耳時及ヒ革喇高ノ三
 國、永久ノ中立ヲ固守スルハ、歐洲公法ノ一部
 トシテ許ルス所ナリ、然レモ、如此ク盟約シテ
 許ルス中立國ハ、自ラ十分ノ中立ト異ナル所
 ニシテ、十分ノ中立ハ、隣國兵ヲ交ユルト虽モ、
 盟約アリテ之ニ關係セサルモノ、如キニ非
 ス、嗟視シテ自ラ獨立ヲ守ルノ權ヲ有ス、故ニ
 此中立ニ於テハ、唯戰時ノミニシテ、平時ニ在
 テハ、敢テ關係スルコトナク、交際上ニ於テ欲ス
 ル所ノ約定ハ、自由ニ之ヲ結フコトヲ得ルナリ、

司法省

故ニ盟約シテ、永久守ル所ノ中立ハ、全ク之ト
 相反對ス、一旦約シテ中立ヲ許諾スル時ハ、平
 時ト虽モ、戰時ニ臨ンテ中立ノ義務ヲ妨ク可
 キ約定ヲ結フ能ハサルナリ、又レ中立國トナ
 ルモノハ、別國トノ交際ニ於テ、全權ヲ以テ盟
 約ヲ為スヲ得可キモノト虽モ、其一旦約シテ
 中立ヲ守ルモノ、如キハ、平時ト虽モ、後來戰
 時ニ當テ、中立ノ義務ヲ妨クル約定ヲ結フ能
 ハス、故ニ戰時ニ臨ンテ、兵ヲ合シテ同戰シ、或
 ハ代テ疆界ヲ守ル等ノ約定ハ、永久ノ中立國